志波城跡

―平成23・24・25年度発掘調査報告書―

2016.2

盛岡市教育委員会

志　波　城　跡

―平成23・24・25年度発掘調査報告書―

2016.2

盛岡市教育委員会

序

史跡志波城跡は，盛岡市の南西部，太田・本宮地区に所在する古代の城柵遺跡です。昭和59年に国史跡の指定を受け，当市教育委員会では用地取得事業，保存整備事業，管理活用事業をすすめております。

保存整備事業は，平成５～11年度に第Ⅰ期保存整備事業として外郭南門・築地塀・櫓などの外郭南辺周辺，平成12～22年度に第Ⅱ期保存整備事業として政庁南門・東西門・築地塀などの政庁域と南東官衙域の官衙建物（展示室）を整備しました。平成９年度からは，「志波城古代公園」として公開し，多くの来訪をいただいております。

平成23年度からは第Ⅲ期保存整備事業に着手し，外郭東西辺の遺構表示や入口広場の環境整備を行い，また平成26年度には郭内竪穴建物（兵舎）の復元，史跡志波城跡のガイダンス施設が完成しました。あわせて，それら整備に先立つ内容確認調査についても，計画的に実施してまいりました。

平成23～25年度の発掘調査は，城内北東部の「鎮兵」兵舎（竪穴建物跡）の広がりや，外郭西辺中央から北部の様相を把握できたなど，貴重な成果をあげることができました。本書は，その調査報告書であり，市民の皆様をはじめ，学校や関係機関・研究者等の方々に活用していただければ幸いと存じます。

最後になりましたが，発掘調査を実施するにあたり，御指導や御助言を賜りました文化庁文化財部記念物課ならびに岩手県教育委員会生涯学習文化課，史跡整備委員会の先生方に対して，深く感謝を申し上げるとともに，御理解と御協力を頂いた地権者各位並びに地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成28年２月

盛岡市教育委員会
教育長　千葉仁一

例　言

1　本書は，岩手県盛岡市下太田方八丁・中太田方八丁ほかに所在する，国指定史跡志波城跡の平成23・24・25年度発掘調査報告書である。なお，志波城跡における過年度の調査報告はこれまで「概報」の名称を使用してきたが，大規模調査での概報刊行と区別するため，本書以降は「報告書」の名称とする。

2　本書の編集は，盛岡市遺跡の学び館が行い，執筆作業を津嶋知弘（遺跡の学び館）・今野公顕（歴史文化課事務局）が担当した。

3　遺構平面位置は，平面直角座標Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は第Ｘ系に準じる。

・日本測地系調査座標原点　Ｘ -35,000.000　Ｙ +23,700.000　→　ＲＸ ±0.000　ＲＹ±0.000

・世界測地系調査座標原点　Ｘ -34,692.299　Ｙ +23,400.450　→　ＲＸ ±0.000　ＲＹ±0.000

4　高さは標高値をそのまま使用している。

5　土層図は堆積のしかたを重視し，線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいて記載した。

6　志波城跡の遺構記号・番号は次のとおりである。

記　号	
柱　列　跡	ＳＡ
建　物　跡	ＳＢ
	ＳＣ
溝　　跡	ＳＤ
井　戸　跡	ＳＥ
築地・土塁	ＳＦ
竪穴建物跡	ＳＩ
	ＳＪ
土坑・竪穴	ＳＫ
そ　の　他	ＳＸ

番　号	
外郭築地線より外側の遺構	001 ～ 099
外郭築地線および付属遺構	100 ～ 199
外郭築地線より内側の遺構	200 ～ 499
政庁地区の遺構	500 ～ 599
中世以降の遺構	800 ～ 899
南辺に関する遺構	下２桁 10 ～ 29
東辺に関する遺構	下２桁 30 ～ 49
北辺に関する遺構	下２桁 50 ～ 69
西辺に関する遺構	下２桁 70 ～ 89

7　平面図は遺構によって，線種を以下のように使い分けた。

遺構	実線　破線
古代の地業跡	一点鎖線
中世以降の遺構	二点鎖線

8　「竪穴建物跡」は，従来「竪穴住居跡」と呼称されてきたものであるが，文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき』（2010）での定義に従い，本書より名称変更する。なお，志波城跡における「竪穴建物跡」は，一般集落における在地住民の「住居」ではなく，律令政府により派遣された鎮兵の「兵舎」であり，この点も名称変更の理由の一つである。

9　古代の土器区分は，土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。「あかやき土器」の名称は，ロクロ使用の酸化炎焼成土器（坏類，甕類，鉢）に使用し，ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は，土師器に分類し

た。

10　発掘調査にともなう出土遺物および諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管している。

11　調査成果の一部については，『現地公開資料』や『古代城柵官衙遺跡検討会資料集』などに報告しているが，本書の記載内容をもって訂正する。

12　本遺跡の発掘調査報告書には下記のものがあり，その略称を次のとおりとした。

盛岡市教育委員会（主に各年度末刊行）

『太田方八丁遺跡－昭和52年度発掘調査概報－』(3～6次)・・・・・・・・・・・・・・・・・『方八丁概報77』
『太田方八丁遺跡－昭和53年度発掘調査概報－』(7～9次)・・・・・・・・・・・・・・・・・『方八丁概報78』
『太田方八丁遺跡－昭和54年度発掘調査概報－』(11～14次)・・・・・・・・・・・・・・・『方八丁概報79』
『志波城跡Ⅰ－太田方八丁遺跡範囲確認調査報告－』(1981年3月刊行)・・・・・・・・『志波城跡Ⅰ』
『志波城跡－昭和55年度発掘調査概報－』(15～17次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報80』
『志波城跡－昭和56年度発掘調査概報－』(18～20･23･24次)・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報81』
『志波城跡－昭和57年度発掘調査概報－』(21～23次補足･25～27次)・・・・・・・・・『志波城概報82』
『志波城跡－昭和58年度発掘調査概報－』(28～30次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報83』
『志波城跡－昭和59年度発掘調査概報－』(31～34次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報84』
『志波城跡－昭和60年度発掘調査概報－』(35・36次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報85』
『志波城跡－昭和61年度発掘調査概報－』(37次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報86』
『志波城跡－昭和62年度発掘調査概報－』(38～41次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報87』
『志波城跡－昭和63年度発掘調査概報－』(42～47次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報88』
『志波城跡－平成元年度発掘調査概報－』(48～49次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報89』
『志波城跡－平成２年度発掘調査概報－』(50～54次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報90』
『志波城跡－平成３年度発掘調査概報－』(55～57次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報91』
『志波城跡－平成４年度発掘調査概報－』(58･59次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報92』
『志波城跡－平成５年度発掘調査概報－』(58次補足・60～63次)・・・・・・・・・・・・『志波城概報93』
『志波城跡－平成６年度発掘調査概報－』(63次補足・64～67次)・・・・・・・・・・・・『志波城概報94』
『志波城跡－平成７年度発掘調査概報－』(68～71次)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報95』
『志波城跡－平成8･9･10年度発掘調査概報－』(72～82次)・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報98』
『志波城跡－平成11～14年度発掘調査概報－』(85～93次)・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報02』
『志波城跡－平成15・16年度発掘調査概報－』(94～97次)・・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報04』
『志波城跡－平成17・18年度発掘調査概報－』(98～100次)・・・・・・・・・・・・・・・『志波城概報06』
『志波城跡－平成20・21・22年度発掘調査概報－』(101～104次)・・・・・・・・・・・・『志波城概報10』

岩手県教育委員会（1982年3月刊行）

『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ－太田方八丁遺跡(志波城跡)－』
・・・・・・・・・・・『志波城跡1･2次』

岩手県埋蔵文化財センター（1982年10月刊行）

『志波城跡発掘調査報告書－太田地区県営圃場整備事業関係発掘調査－』・・・『志波城跡21･22次』

目　次

第１章　調査経過
1　志波城跡の概要 …… 1
2　これまでの調査 …… 2
3　平成23・24・25年度の調査 …… 4
4　体制 …… 4

第２章　調査成果
1　郭内北部・北東部（第105次調査） …… 9
2　外郭東辺南部（第106次調査） …… 10
3　外郭西辺北部（第107次調査） …… 11
4　外郭西辺中央部（第108次調査） …… 13
5　外郭南辺西部（第109次調査） …… 14
6　郭内北部（第110次調査） …… 15

第３章　総括
1　調査のまとめ …… 16
2　外郭西辺の門と櫓の配置 …… 18
3　大正・昭和初期のガラス瓶（サクラビール） …… 20

写真図版
報告書抄録

表　目　次

第１表　平成23・24・25年度調査成果一覧・・・・・ 4
第２表　第105・107次調査出土土器観察表・・・・・22
第３表　第106次調査遺構土層観察表・・・・・・・・・22
第３表　第107次調査遺構土層観察表・・・・・・・・・23
第４表　第108次調査遺構土層観察表・・・・・・・・・24

図　目　次

第１図　志波城跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２図　志波城跡全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第３図　郭内北東部（第23次Ａ区，32次，
105次3・4区）調査全体図・・・・・・・・・・25
第４図　郭内北東部（第105次4区）調査全体図・・29
第５図　郭内北東部（第105次3区）調査全体図・・30
第６図　郭内北東部（第105次3・4区）
調査出土土器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第７図　外郭東辺南部（第106次）調査区全体図，
SD130築地外溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第８図　外郭南辺（第109次）調査全体図，
SD010外大溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第９図　外郭西辺（第5次，104次，107次，108次）
調査全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第10図　外郭西辺（第107次）調査全体図・・・・・37
第11図　外郭西辺（第107次Ａ区北半部）調査
SD170築地外溝跡，SX172築地線地業跡・38
第12図　外郭西辺（第107次Ａ区南半部）調査
SD170築地外溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第13図　外郭西辺（第107次Ｂ区北半部）調査
SD070外大溝跡，SX070土塁跡・・・・・・・40
第14図　外郭西辺（第107次Ｂ区南半部）調査
SD070外大溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
第15図　外郭西辺（第107次Ａ区）調査
SD170築地外溝跡，出土土器・・・・・・・・42
第16図　外郭西辺（第107次Ｂ区）調査
SD070外大溝跡・SX070土塁跡・・・・・・・43
第17図　外郭西辺（第108次）調査全体図・・・・・44
第18図　外郭西辺（第108次Ｂ区）調査
SD070外大溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第19図　外郭西辺（第108次Ａ区）調査
SX173築地基壇跡，SD170築地外溝跡・・46
第20図　外郭西辺（第108次）調査
SF170築地塀跡，SD170築地外溝跡，
SD070外大溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第21図　外郭西辺（第5次，1977年）調査全体図，
SD070外大溝跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
第22図　外郭西辺（第5次，1977年）調査
SD170・171築地外溝跡，
SX171築地基壇跡・・・・・・・・・・・・・・・・・49

写真図版目次

第１図版　史跡志波城跡航空写真，復元建造物，
ガイダンス施設・・・・・・・・・・・・・・・・53
第２図版　第105次調査(1)・・・・・・・・・・・・・・・・54
史跡志波城跡保存管理計画と
東北電力鉄塔新設位置模式図
1区［雫石線No.6鉄塔］全景
第３図版　第105次調査(2)・・・・・・・・・・・・・・・・55
3東区［太田線No.4鉄塔当初］全景
3南区［太田線No.4鉄塔当初］全景
3西区［太田線No.4鉄塔当初］全景

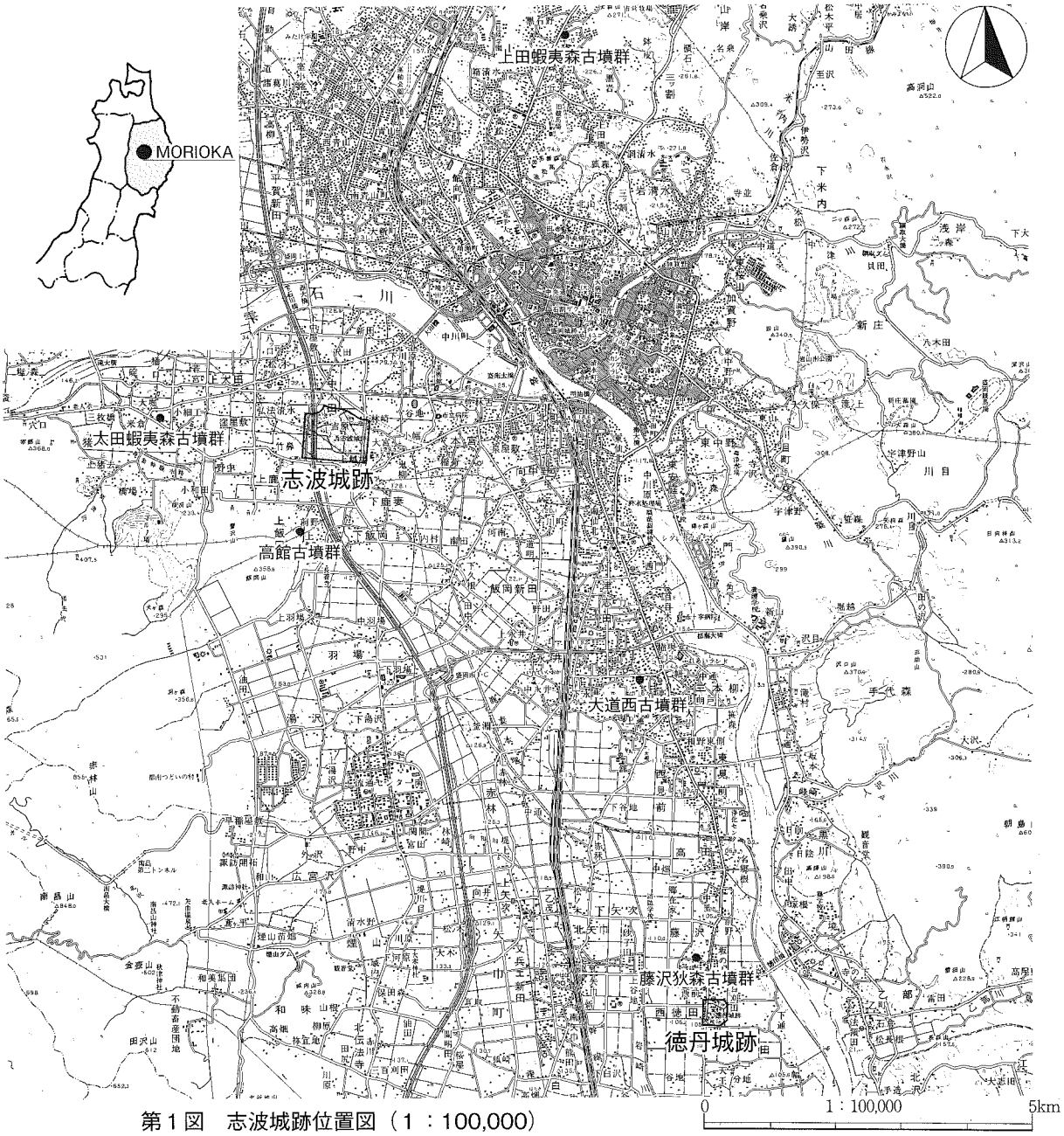
第４図版　第105次調査(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
4東区［太田線No.4鉄塔変更］東半部全景
4東区［太田線No.4鉄塔変更］西半部全景
4西区［太田線No.4鉄塔変更］全景
第５図版　第106次調査(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
北トレンチ全景
北トレンチSD130築地外溝跡
サブトレンチ断面
第６図版　第106次調査(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
南トレンチ全景
北南トレンチSD130築地外溝跡
サブトレンチ断面
第７図版　第107次調査(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
調査区Ａ区全景
調査区Ｂ区全景
第８図版　第107次調査(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
Ａ区SD170築地外溝跡サブトレンチ1
Ａ区SD170築地外溝跡サブトレンチ1断面
Ａ区SD170築地外溝跡サブトレンチ1断面
灰白色火山灰
第９図版　第107次調査(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
Ａ区SD170築地外溝跡サブトレンチ1
灰白色火山灰検出状況
Ａ区SD170築地外溝跡サブトレンチ3
Ａ区SD170築地外溝跡サブトレンチ3断面
第10図版　第107次調査(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
Ｂ区SD070築地外溝跡サブトレンチ1
Ｂ区SD070築地外溝跡サブトレンチ1断面
Ｂ区SD070築地外溝跡サブトレンチ1
灰白色火山灰検出状況
第11図版　第107次調査(5) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
Ｂ区SX070土塁跡
調査風景
第12図版　第108次調査(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
調査区Ｂ区全景
第13図版　第108次調査(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
調査区Ａ区全景
第14図版　第108次調査(3) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
Ｂ区SD070外大溝跡
Ｂ区SD070外大溝跡サブトレンチ断面
Ｂ区SD070外大溝跡サブトレンチ断面
灰白色火山灰
第15図版　第108次調査(4) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
Ａ北区SX173築地基壇・崩壊土
Ａ北区SX173築地基壇・崩壊土断面北部
Ａ北区SX173築地基壇・崩壊土断面南部
第16図版　第108次調査(5) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
Ａ北区SD170築地外溝跡サブトレンチ
Ａ北区SX173築地基壇・崩壊土断面
Ａ北区SD170築地外溝跡断面
第17図版　第108次調査(6) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
Ａ北区SD170築地外溝跡
灰白色火山灰検出状況
Ａ南区SD170築地外溝跡・SX173築地基壇
Ａ南区SX173築地基壇・崩壊土断面
第18図版　第108次調査(7) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
調査風景
第19図版　第109次調査(1) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
調査区全景
第20図版　第109次調査(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
SD010外大溝跡断面近景
SD010外大溝跡断面全景
第21図版　第110次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
調査区全景
第22図版　第105・107次調査出土遺物・・・・・・・・ 74
第23図版　第107次調査出土ガラス瓶・・・・・・・・・ 75
第24図版　「サクラビール」ポスター・・・・・・・・ 76

第１章　調査経過

１　志波城跡の概要

立　　地　志波城跡は，盛岡市の南西部に位置する。遺跡の総面積は約75万㎡と広大であり，地番としては，下太田方八丁（東半部）・新堰端（南東部）・林崎（北東部）・宮田（北東部），中太田方八丁（西半部）・法丁（北西部）・吉原（北西部）・小沼（北西部），上鹿妻五兵衛新田（南西部），本宮大宮（東部）・林崎（南東部）と11地区にわたって所在する（第１図）。

地　　形　遺跡は，北上川と雫石川が作り出す低位沖積段丘面に立地する。遺跡の北側を東に流れる雫石川が北上川と合流するまでの南岸では，雫石川の流路転換によって形成された幾筋もの旧河道と沖積段丘がみとめられる。旧河道は，連続する大きなものが４条あり，そのほか細かい網



第１図　志波城跡位置図（１：100,000）

状のものも多く見られ，大きな旧河道の南岸には河岸段丘が形成されている。この河岸段丘は，南側から現河道に向かって低くなっており，河道が北進したことを物語っている。遺跡の立地する沖積段丘は，水成砂礫層を基底とし，その上に水成シルト層が乗り，表土が覆っている。

基本層はおおむねこの３層に分けられるが，地点によって砂礫層の上面高および層厚や層相は大きく異なる。つまり，この沖積段丘は，雫石川が周辺の山地から供給される砂礫やシルトによって堆積され，河道の定まらない雫石川による下刻や堆積が繰り返されたものといえる。

環　　境　この地域は，現在は多くの水田・畑が営まれる平坦地が広がり，北上川沿いには南の北上・胆沢方面と，雫石川沿いには西の秋田方面と連絡できる交通の要衝に位置し，沖積段丘上には奈良・平安時代の集落遺跡や末期古墳などが多く分布する。古代から肥沃な農地として，また交通の要衝として恵まれた地域であったと考えられる。

歴史的経緯　「志波城」は，奈良・平安時代に東北地方に造営された「城柵」のひとつである。古代日本の律令制度は，全国の土地と人民を政府が直接支配する中央集権体制であり，全国を国郡里という行政単位で治めていたが，東北地方北半はその範囲外であり，人々は「蝦夷（エミシ）」と呼ばれ，「化外の民」とみなされていた。城柵はその東北地方を治めるために律令政府が造営した行政府兼軍事拠点であり，文献記録には20以上の「柵」「城」「塞」の名前が確認される。古代陸奥国では，神亀元年（724）に現在の宮城県中央部に「多賀城」が造営され国府となり，8世紀後半代までに宮城県北部までが，律令統治下に組み込まれたと考えられている。延暦二十一年（802）に岩手県奥州市水沢九蔵田の地に「胆沢城」が，志波城はその翌年，延暦二十二年（803）に盛岡市太田・本宮の地に造営された。しかし文献記録によれば，志波城は近接する河川の氾濫による水害を理由に，10年後には約10km南の矢巾町徳田の地に新しく造営された「徳丹城」に主な機能を移転している。志波城は，これまでの調査成果から，古代陸奥国最北・最大規模であることが判明しており，律令政府の最前線拠点であったといえる。

2　これまでの調査

調査経緯　志波城跡は，かつて字名より「太田方八丁遺跡」と呼ばれており，前九年合戦時の源氏の陣場跡や古戦場として伝承されてきた。一方「志波城」は，『日本紀略』延暦二十二年（803）二月条に「造志波城所」，同三月には「造志波城使・・・坂上田村麿・・・」との記述が見られ，古くから所在地不明な城柵として，現在の花巻市や紫波町など各地に擬定地があった。

遺跡の本格的な発掘調査は，昭和51・52年度の東北縦貫自動車道建設にともなう調査（岩手県教育委員会）を契機として始まった。この調査では，築地塀跡や大溝，多くの竪穴建物群などが検出され，太田方八丁遺跡は所在地が不明であった「志波城跡」ではないかと注目を集めた。それを受け，盛岡市教育委員会は，昭和52～54年度に範囲確認調査（第1次3ヶ年計画）を実施し，本遺跡の範囲・規模などの基本構造が明らかになり，「志波城跡」であると認定された。その後，昭和59年には国指定史跡としての告示を受けた。

この成果をふまえ，昭和55～59年度には，本遺跡を史跡として恒久的に保存し，盛岡のみならず東北の古代史の解明と史跡の積極的な活用を図る史跡整備の基礎資料を得ることを目的とした発掘調査を継続した（第2次5ヶ年計画）。この結果，志波城跡の古代城柵としての共通性

と，陸奥国最北端の城柵としての独自性が明らかになった。

昭和60～平成元年度には，史跡整備案を具体化するための本格的な資料収集を目的として，主要殿舎と政庁南東官衙域の確認，外郭南辺部の構造解明のための調査を実施し（第3次5ヶ年計画），昭和63年度には「史跡志波城跡保存管理計画」を策定した。

その後，平成2～8年度は第Ⅰ期保存整備事業に伴う外郭南辺部・南大路の構造解明と政庁東方官衙域範囲確認の調査を実施，平成9～21年度は第Ⅱ期保存整備事業に伴う政庁・官衙域及びその周辺の構造解明を目的とした調査を実施，そして平成22年度以降は第Ⅲ期整備事業に伴う外郭東辺及び西辺の構造解明を目的とした調査を継続した。

復元整備　平成5年度以降は，上記の調査の成果を踏まえ，外郭南門・築地塀・櫓・大路などの復元整備を開始し，平成9年度に「志波城古代公園」として開園。以後年間約１万人以上の来訪者を数えている。平成12年度以降は，政庁南門・築地塀・東西門・官衙建物などを復元整備し順次公開範囲を拡大，平成23年度以降は外郭東西辺公有地の環境整備と南辺入口広場のガイダンス施設建設事業を継続している。

発掘成果　発掘調査は，昭和51年度（1976）から平成25年度（2013）までの37年間に，のべ110次，170,294㎡を対象とし，遺跡総面積約750,000㎡（指定地外を含む）のうち，22.71％を調査している（第2図）。

外郭　外郭規模は，840m四方（方八町）の築地塀と約930m四方の土塁をともなう外大溝で二重に区画されている。その規模は，陸奥国府多賀城（不整方八町）に匹敵するものである。また，志波城跡の北東に隣接する林崎遺跡と，南に隣接する田貝遺跡・新堰端遺跡においては，外郭築地線からそれぞれ外側１町（約108m）の位置に大溝を確認しており，その埋土や出土遺物が外大溝に類似していることから，外大溝の外側を走るもう1条の区画溝（通称「一町溝」）をともなっていたと考えられる。

郭内　郭内は，中心からやや南寄りの位置に「政庁」，その周囲には実務を執り行った「官衙域」，外郭築地塀の内側一町（約 108 m）幅で兵舎や工房としての機能を持つ竪穴建物が配置されていた。志波城内の主要建物は掘立柱建物であり，礎石建・瓦葺のものは確認されていない。

政庁　中枢施設である政庁は，150m四方を築地塀で区画し，四方に門を持つ。この政庁規模は，鎮守府胆沢城の3倍，国府多賀城の2倍の面積であり，城柵最大規模である。政庁では，四方の門跡，正殿跡・東西脇殿跡のほか11棟の建物跡と，目隠塀跡などを確認している。政庁内北側には後殿がなく，規格的に配置された建物跡は，志波城の特徴のひとつといえる。

官衙　官衙は，政庁の南東方・南西方・東方に，掘立柱建物跡を確認している。政庁・官衙域の主要な掘立柱建物は，柱が抜き取られており，徳丹城へ運ばれた可能性も指摘されている。

竪穴建物　竪穴建物は，これまでの調査における遺構密度から，外郭沿いに約1,100～2,200棟建築された（建て替えあり）と推定される。郭内に多数の竪穴建物を内包している点は，志波城の大きな特徴である。竪穴建物からは，武具や農工具（鏃・小札・鎌・斧・釘），馬具などの鉄製品が多数出土しているほか，小鍛冶を行っていたと考えられる竪穴建物も検出しているが，その主な機能は「鎮兵」の兵舎であったと考えられる。また，「佐旅（さみ）」（新潟県・越後国頸城郡内の郷名か），「上総」（千葉県）とある墨書土器は鎮兵の派遣元を，「酒所」「厨」とある墨書土器は城内の使われ方を示す貴重な文字資料である

なお，志波城の基準尺は，１尺≒0.3mである。

3　平成23・24・25年度の調査

平成23・24・25年度は，第105～110次の6地点，計1,973㎡の調査を実施した（第1表）。このうち，現状変更にともなう調査が第105・109・110次の3地点，第Ⅲ期保存整備事業にともなう内容確認調査が第106・107・108次の3地点である。

年度	次数	調査地点	調査原因	調査主体	面積（㎡）	調査期間	検出遺構
23	105	郭内北東部・郭内北部旧河道	高圧送電線鉄塔移設（東北電力）	市教委	880	11.04.12-04.26 11.11.30-12.05	平安時代竪穴建物跡７棟，土坑４基，溝跡２条，柱穴
	106	外郭東辺南部	内容確認（史跡整備）	市教委	78	11.11.15-11.22	外郭東辺築地外溝跡
24	107	外郭西辺北部	内容確認（史跡整備）	市教委	743	12.10.24-12.11	外郭西辺築地線・築地外溝跡・外大溝跡
25	108	外郭西辺中部	内容確認（史跡整備）	市教委	145	13.10.15-11.18	外郭西辺築地線（基壇）・築地外溝跡・外大溝跡
	109	外郭南辺西部	県営鹿妻新堰水路改修工事による毀損，復旧	市教委	7 （延長15m）	14.01.14	外郭南辺外大溝跡（断面）
	110	郭内北部	住宅建替え	市教委	120	14.03.11	遺構・遺物なし
計					1,973		

第１表　平成23・24・25年度調査成果一覧

4　体制

［調査主体］　盛岡市教育委員会　　［事 務 局］　盛岡市教育委員会歴史文化課

［調　　査］　盛岡市教育委員会歴史文化課・盛岡市遺跡の学び館

［指　　導］　文化庁文化財部記念物課，岩手県教育委員会生涯学習文化課

［史跡整備委員会］

平成23年度：上野邦一（顧問），田中哲雄（委員長），西村幸夫，山中敏史，島田敏男，阿部博志，樋下正信，嶋千秋

平成24年度：上野邦一（顧問），田中哲雄（委員長），西村幸夫，山中敏史，黒坂貴裕，佐藤則之，樋下正信，嶋千秋

平成25年度：上野邦一（顧問），田中哲雄（委員長），西村幸夫，山中敏史，黒坂貴裕，笠原信男，倉原宗孝，樋下正信，嶋千秋

［協　　力］　発掘調査，資料整理，報告書編集にあたり，地権者・地元関係者の方々，東北電力株式会社岩手支店，岩手県盛岡広域振興局，そして多くの作業員，及び県内外文化財関係職員の方々より多大なる協力を得た。

［発掘調査担当者（本書掲載）］

第105次調査（平成23年度）　佐々木亮二・三品花菜子［遺跡の学び館］

第106次調査（平成23年度）　今野公顕［歴史文化課］

第107次調査（平成24年度）　津嶋知弘・三品花菜子［遺跡の学び館］

第108次調査（平成25年度）　津嶋知弘［遺跡の学び館］

第109次調査（平成25年度）　今野公顕・佐々木亮二［歴史文化課］，津嶋知弘［遺跡の学び館］

第110次調査（平成25年度）　津嶋知弘［遺跡の学び館］

第２図　志波城跡全体図（1：4,000）

第２章　調査内容

１　郭内北部・北東部（第105次調査）

位　　置　第105次調査は，東北電力の高圧電線鉄塔移設に伴う事前調査（遺構有無確認）として実施し，郭内北部・北東部にあたる（1～4区）。1・2区は，志波城北部に入り込む旧河川（運河と想定）の中，3・4区は外郭東辺内側北部の「鎮兵」兵舎（竪穴建物）域縁辺部である。

経　　緯　志波城跡の南東近隣には，戦前から東北電力の盛岡変電所があり，史跡指定地内を3経路の高圧電線（太田線，雫石線，岩盛線）が通過しており，その鉄塔により志波城跡全体の景観が損なわれていることが，昭和59年（1994）の国史跡指定時から長年の懸案となっていた。特に，政庁の南面を通過する雫石線は，昭和15年（1940）に建設された鉄塔が低く，八脚門や築地塀が復元された政庁域の歴史的景観に支障となるとともに，史跡整備で盛土したことにより高圧電線が地表近くになってしまっていた。このことについて，当市教委では折に触れ東北電力に線路変更の検討を申し入れてきたが，予算の問題があり進捗がなかった。

東北電力は，老朽化した高圧電線の高規格化と雪害対策，架線の高度をとるため，鉄塔の建て替えを計画し，平成21年に当市教委に協議があった。当初，平成24・25年度に施工する計画だったが，平成23年３月に発生した東日本大震災の影響で，平成25・26年度施工となった。文化庁，史跡整備委員の指導を受けながら，当市教委は東北電力と線路や工法の協議を重ねた。結果，史跡指定地外を迂回することは住宅や学校・幼稚園が所在し技術的に困難なことから，史跡中心部を避け極力史跡指定地外を通るように東から北へ切り回すこと，史跡内外の鉄塔の本数を減らすことで合意，新規建設３基の鉄塔位置に遺構がないこと（遺構検出時は設計変更）を条件に，現状変更申請を受理した（写真第２図版模式図参照）。

調　　査　新規鉄塔の位置はいずれも水田耕作地であることから，田植え作業前の平成23年4月に遺構確認調査を実施した。郭内北部西側の雫石線No.6鉄塔予定地（1区），東側の雫石線No.5鉄塔予定地（2区）では遺構が検出されなかった。郭内北東部にあたる当初設計の太田線No.5鉄塔予定地（3区）において志波城期の竪穴建物跡等を検出した。そのため，東北電力は設計変更を行い，稲刈り後の11・12月に変更後の太田線No.5鉄塔予定地（4区）の遺構確認調査を実施。2箇所の候補地（4東区東半部，4西区）からは志波城期の竪穴建物跡等を検出したため，急遽その2箇所の間に調査区（4東区西半部）を設定，遺構が検出されなかった4東区西半部の範囲内で鉄塔を建設することが可能であることを確認した。なお，各調査区における遺構検出面は，現水田地表面から約60cm下であり，遺構は検出のみを行い精査はせず，調査終了後は埋め戻して遺構保護を図った。

１区・２区　旧河川跡（運河と想定）である1区では，水田耕作土の下に低湿地の自然堆積土を検出し，2区では水田耕作土の下より基盤の砂礫層を検出した。遺構・遺物は確認されなかった。

３区　郭内北東部の3区は，竪穴建物跡を検出した昭和59年度（1984）の第32次調査の南西約70mに位置し（第3図），外郭東辺築地線より100m以上離れていることから，調査前は外郭沿いの兵舎（竪穴建物）域からはずれるものと想定したが，4箇所の鉄塔基礎予定位置から，古代の

竪穴建物跡5棟（ＳＩ４６１～４６５）を検出した（第5図）。調査区が狭いため一辺の長さが明確なものはないが，ＳＩ４６１は一辺5.5m以上と比較的規模の大きな竪穴建物跡のようである。また，ＳＩ４６２は調査区内に煙道・煙出しの平面プランを検出した。ＳＩ４６４とＳＩ４６５は重複がある。これらは志波城期の兵舎跡と考えられる。このほか，古代以降と思われる土坑4基（ＳＫ８５８～８６１）・溝跡1条（ＳＤ８２９）・ピット2口を検出した。

4区　4西区は，3区の南南東約70mにあり（第3図），古代以降の焼土跡1箇所と溝跡2条（ＳＤ８３０・８３１）を検出した（第4図）。４東区は，昭和56年度(1981)の第23次調査Ａ区で3棟の竪穴建物跡（ＲＡ４１１・４１２・４１３）を検出した地点の北側に隣接しており（第3図），竪穴建物跡2棟（ＲＡ４６６・４６７）を検出した（第4図）。規模は，ＲＡ４６６が一辺3.3～3.7m，ＲＡ４６７が一辺3.8～4.3mを測り，いずれも煙道・煙出しの平面プランが検出された。3区と同様に志波城期の兵舎跡と考えられる。

出土遺物　3西区のＳＩ４６１検出面より須恵器坏（第6図01・02，第2表），土師器甕破片が出土した。01は志波城跡に特徴的な白色に近いクリーム色の胎土であり，02の底面には火襷が見られる。ともに底部は，回転ヘラ切り後にヘラナデ再調整を施している。3南区のＳＩ４６２検出面からは須恵器坏・蓋・甕，土師器甕破片，3東区のＳＩ４６４の検出面からは須恵器坏・壷・大甕，土師器甕，あかやき土器坏破片，4東区のＳＩ４６６の検出面からは須恵器坏，あかやき土器坏破片が出土した。またＳＩ４６６南方の遺構外より須恵器坏（第6図03，第2表），土師器甕，あかやき土器甕破片が出土した。03は底部全面がヘラケズリ再調整が施され，底面・外面に火襷が見られる。また外面の一部と内面に漆状の有機質膜が付着している（写真第22図版）。須恵器はいずれも9世紀前葉の志波城期のものと考えられる。

2　外郭東辺南部（第106次調査）

位　　置　第106次調査は外郭東辺南部にあたり，昭和53年度(1978)の第6次調査の南約100m，また外郭築地線南東角より北に約60mの地点に位置する。

目　　的　本調査では，第Ⅲ期整備における当該地の環境整備に先立ち，外郭東辺築地外溝の位置，及びその残存状況の確認を行うことを目的に実施した。

検出遺構　本調査は，東西方向のトレンチを2本，南北に平行して設定し，築地外溝跡（ＳＤ１３０）を検出した。遺構の精査は，サブトレンチによる最小限のものとして遺構保護を図った。

ＳＤ１３０外郭東辺築地外溝跡（第７図）

位置・規模　調査区の西寄りに，ＳＤ１３０築地線に平行して，南北に走ることを確認した。検出面では溝の東側上端の平面プランのみが検出され，西側上端は調査区の西側を走る県道盛岡和賀線内にあると考えられる。推定される溝幅は約7m。サブトレンチによる精査では，検出面からの深さが1.0mを測り，底面は基盤の砂礫層を少し掘り込んでいる。溝の東壁は底面から急峻に立ち上がり，途中から傾斜を緩やかにして開く。

埋　　土　埋土は，北トレンチでA1～3，B1～5，C1～4，D1・2層に，南トレンチでA1～4，B1～

6，D1～6，E1・2層に分層される（第3表）。B1層は，十和田a火山灰［To-a,915年降下］と考えられる灰白色粉状パミスの混じる黒～黒褐色土層である。また，D層は築地崩壊土の一部と考えられる。

出土遺物　サブトレンチ内より，須恵器坏・大甕，土師器坏・甕の破片が出土した。

3　外郭西辺北部（第107次調査）

位　　置　第107次調査地点は，志波城外郭西辺北部にあたり，平成22年度(2010)にＳＦ１７０外郭西辺築地塀跡本体の積み土を確認した第104次調査地点の南約100mに位置する。また，外郭築地線南西角より北に約360mの地点に位置する。

目　　的　本調査では，第Ⅲ期整備における当該地の環境整備に先立ち，外郭西辺築地塀，築地外溝，櫓跡(外郭南辺では約60m間隔に櫓跡を確認)，外大溝の位置の検出，及びそれらの残存状況の確認を行うことを目的に実施した。遺構の精査は，サブトレンチによる最小限のものとして遺構保護を図った。

検出遺構　本調査は東西2箇所に調査区を設定（第10図），東側のＡ区において外郭西辺築地線(ＳＦ１７０），築地外溝跡（ＳＤ１７０）を検出した。また西側のＢ区において外郭西辺外大溝跡（ＳＤ０７０），土塁跡（ＳＸ０７０）を検出した。各遺構の精査は，サブトレンチによる最小限のものとして遺構保護を図った。

報　　道　なお発掘調査期間中に，地元ラジオ局（エフエム岩手）による番組中継があり，また調査速報が地元新聞（岩手日報）で報道された。

ＳＦ１７０外郭西辺築地線・ＳＸ１７２地業（第11・12図）

位置・規模　Ａ区東端を南北に築地線が通ることを確認した。築地塀本体となる積み土は検出されず，築地塀建設のための足場穴や築地崩壊土なども確認できないことから，現在の調査区内は志波城期である9世紀初頭当時より削平されていることが確認された。掘込地業も確認されなかったが，地山黒褐色土・暗褐色土が非常に硬く締まっている状況が確認され，重量のある構造物(＝築地塀)が乗っていたことを示すものと考えられる。

地　　業　ＳＸ１７２は，Ａ区北東部で検出された黄褐色シルト粒と黒褐色土粒が混じる人為堆積土（Ｊ層）の広がりであるが，検出面からの深さが浅く，また底面には凹凸があり，築地線の犬走りを整形する何らかの地業と推定される。

櫓　　この築地線の西側，ＳＤ１７０築地外溝との間に柱掘方の平面プランは検出されず，Ａ区内には櫓が建設されなかった(少なくとも外郭南辺のような築地塀をまたぐ構造の櫓は建設されなかった)ことが確認された。

ＳＤ１７０外郭西辺築地外溝跡（第11・12・15図）

位置・規模　ＳＦ１７０築地線の西側に平行して，南北に走ることを確認した。検出面での溝幅は，南端で3.9m，北端で6.4mを測る。サブトレンチによる精査では，検出面からの深さは，底面まで

掘り下げた調査区北端のサブトレンチ1で0.85mを測る。

埋　　土　埋土は，A1・2，A'1・2，B1，B'1・2，C1・2，D1，E1・2，F1・2層に分層される（第4表）。上部のA・A'層が，褐色シルトを主体とした急激な水成堆積（洪水堆積），それより下部は自然堆積の黒～黒褐色土が主体となるが（B～F層），ほぼ中間にあたるD層は，十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスの多く混じる黒色土層である。溝の底面は基盤の砂礫層を掘り込まない。

出土遺物　A区南端のサブトレンチ3より須恵器坏(第15図04，第2表)，A区中央北部ＳＤ１７０築地外溝跡検出面より須恵器大甕破片が出土した。04は，築地外溝の築地塀側肩上部付近のE2層から破片がまとまって出土した。胎土の色調は志波城跡で特徴的な白色に近いクリーム色を呈し，底面は回転糸切り無調整。志波城期である9世紀前葉の年代が考えられる。

ＳＤ０７０外郭西辺外大溝跡・ＳＸ０７０土塁跡（第13・14・16図）

位置・規模　ＳＤ０７０はB区中央を南北に走る溝跡で，ＳＤ１７０築地外溝跡より芯々で約35.0m西に位置する。検出面での溝幅は，調査区南端のサブトレンチ2で3.7m，北端のサブトレンチ1で4.1mを測るが，ともに旧建築物の攪乱により上端が大きく壊されており，本来は4.5m前後あったものと推定される。溝の深さは，サブトレンチ2で検出面より1.7mを測る。

埋　　土　埋土は，A1，B1，C1～3，D1，E1，F1，G1～3，H1～5層に分層される（第4表）。A・B層は砂礫の混じる自然堆積の黒褐色土主体層，その下のC層がＳＤ１７０－A層と同一と考えられる褐色シルトを主体とした急激な水成堆積（洪水堆積）である。その下は自然堆積層が続くが，黒色土が主体のD層の下となるE層は，十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスの多く混じる黒褐色土層である。溝底面は砂礫層を掘り込んでいるが，最下部のH層には，土塁崩壊土と考えられる褐色シルトと黒褐色土のブロックが確認された。

土　　塁　また，B区北西隅で地山黒色土の盛り上がりと積み土状のA'1層（第4表）が幅約0.7mで検出され，外大溝に伴う土塁の基底部の痕跡(ＳＸ０７０)と考えられる。

遺構外遺物　以上，志波城期の遺構・遺物のほか，表土より，近世～幕末・明治の中国染付小鉢，肥前染付皿，瀬戸・美濃染付なます皿・猪口，大堀相馬灰釉茶碗の破片，寛永通寶（新寛永）などが出土している。また，大正～昭和初期の「サクラビール」（福岡県門司工場，大正2年創業）ガラス瓶，昭和30年代以降の「三ツ矢サイダー」ガラス瓶，「岩手牛乳」ガラス瓶，昭和40年代の「岩手川」「株式会社浜藤酒造店」清酒瓶，蓋に「THE ATHENAINK MARUZEN TOKYO」とあるガラスインク瓶，「トウゴー白晝現像液」ガラス薬瓶，「イホコロリ」ガラス薬瓶，「IWABUCHI」（岩淵電気工業，明治18年創業）・「1927」（昭和2年）銘の碍子（電線用の陶器製絶縁体），一銭銅貨（明治六年銘）など，明治～戦前，戦後～高度経済成長期の世相が伺える遺物が出土している（写真第22・23図版）。

4　外郭西辺中央部（第108次調査）

位　　置　第108次調査地点は，志波城跡の外郭西辺中央部にあたり，平成22年度(2010)にＳＦ170外郭西辺築地塀基底部の版築の積土を確認した第104次調査地点から約220ｍ南に，また平成24年度(2012)にＳＤ１７０外郭西辺築地外溝・ＳＤ０７０外大溝を確認した第107次調査地点から約120ｍ南に位置する。また，外郭築地線南西角より北に約240ｍの地点，また政庁西門の位置から西に延長した外郭西門推定位置より南に約80ｍの地点に位置する。

目　　的　本調査では，外郭西辺築地線，築地外溝，櫓(掘立柱の掘方，外郭南辺では約60ｍ間隔に築地塀をまたぐ形式の櫓を確認)，外大溝の検出，及びそれぞれの位置関係，埋土の堆積状況等の確認を行うことを目的として実施した。

検出遺構　本調査は東西2箇所に調査区を設定（第17図），東側のＡ区において外郭西辺築地線(ＳＦ１７０）・基壇（ＳＸ１７３），築地外溝跡（ＳＤ１７０）を検出した。また西側のＢ区において外郭西辺外大溝跡（ＳＤ０７０）を検出した。各遺構の精査は，サブトレンチによる最小限のものとして遺構保護を図った。

出土遺物　Ａ区表土より須恵器壺の口縁～頚部の破片が1点出土したのみで，各遺構の検出面・サブトレンチから古代の遺物の出土はなかった。

公開・報道　なお，発掘調査成果の現地公開を平成25年11月11日～15日に行い，その様子が地元新聞（岩手日報・盛岡タイムス）・テレビ（岩手めんこいテレビ）で報道された。

ＳＦ１７０外郭西辺築地線（第19・20図）

位置・規模　Ａ区の東側に隣接する南北に走る市道官台線内にＳＦ１７０築地塀があったと推定される。第104次調査の成果より築地塀の基底幅を約2.6m(8.5～9尺)とすれば，築地塀本体の基底部は調査区外となる。Ａ区東端には，塀本体の基礎となる基壇の版築と考えられる積土（ＳＸ１７３，Ｋ1層），及び築地崩壊土（Ｈ層）が検出された。基壇の幅は7.5～8.2m（築地塀推定中心線から折り返した場合）と推定される。

足場穴　サブトレンチでは，築地塀建設時の足場穴と考えられるピットが検出され，基壇の版築積み土の上からの掘り込みを確認した。

櫓　一方，築地線沿いに柱掘方（掘立柱建の西側柱筋）の平面プランが検出できないことから，Ａ区内には掘立柱の櫓が建築されなかった(少なくとも外郭南辺にある築地塀をまたぐ形式の櫓はない)と考えられる。

ＳＤ１７０外郭西辺築地外溝跡（第19・20図）

位置・規模　ＳＦ１７０築地塀の西側に平行して南北に走ることを確認した。検出面での溝幅は6.5m以上，西側の上端プランは調査区外となった(推定幅7～8m)。サブトレンチにおける溝の深さは，検出面より1.65mを測る。

埋　　土　埋土は，Ａ1'・1～7，Ｂ1～4，Ｃ1，Ｄ1・2，Ｅ1，Ｆ1層に分層される（第5表）。埋土上半0.9mには褐色シルト及び砂が互層状に厚く堆積しており（Ａ層），水成堆積の特徴から大規

模洪水層と考えられる。この大規模洪水層の下に黒色～暗褐色土層が堆積し（Ｂ層），そのさらに下に十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスの多く混じる暗褐色土層(Ｃ層)が確認された。溝の底面は基盤の砂礫層を掘り込まない。

ＳＤ０７０外郭西辺外大溝跡（第18・20図）

位置・規模　ＳＤ０７０はＢ区中央を南北に走る溝跡で，ＳＤ０７０外大溝跡中心線とＳＤ１７０築地外溝跡中心線の距離は，33.9m(113尺)を測る。また，検出面における溝の上端幅は5.2m，深さは検出面より1.75mを測る。

埋　　土　埋土は，A1，B1～6，C1～3，D1，E1・2，F1，G1，H1～3，I1～3層に分層される（第5表）。埋土上半1.1mに，ＳＤ170外大溝跡埋土と同様の厚い褐色シルトを主体とした層（大規模洪水層）が確認でき(Ａ～Ｃ層)，自然堆積の黒褐～暗褐色土層（Ｄ・Ｅ層）をはさんでその下に十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスが混じる層(Ｆ層)が堆積する状況が確認できる。溝底は地形の基盤にある砂礫層を掘り込んでおり，壁際に土塁(外大溝を掘り上げた土で構築)崩壊土である褐色シルトと黒色土のブロック（Ｈ層），底面には砂礫が多く混じる溝壁面崩壊土（Ｉ層）が確認された。

5　外郭南辺西部（第109次調査）

位　　置　第109次調査地点は，志波城跡の外郭南辺西部にあたり，平成3年度(1991)の第57次調査において検出されたＳＤ０１０外郭南辺外大溝跡底面のＳＢ０１０橋脚跡（南外大路横断木橋）から西に約230mの地点に位置する。

経　　緯　本地点をほぼ東西に通過する基幹農業用水路「鹿妻新堰」は，志波城跡の史跡指定地境界線の南に隣接する（水路用地は史跡指定地外）。老朽化したこの用水路について，平成25年度(2013)に史跡隣接地の部分の改修工事を行うと事業主体である岩手県盛岡広域振興局農政部農村整備室から岩手県教育委員会生涯学習文化課及び当市教育委員会歴史文化課に協議があった。工事は史跡指定地外である水路用地内にすべておさまる設計であることから，史跡隣接地の埋蔵文化財包蔵地として扱うこととなった。また国史跡・歴史公園に隣接していることから，公園来訪者の安全と景観保護のため，振興局農村整備室と水路管理者である鹿妻穴堰土地改良区及び当市教委が協議し，ボックスカルバートによる暗渠化を図ることで合意し着工した。工事中は掘削時に県教委生涯学習文化課と市教委歴史文化課が立ち会った。

史跡毀損　しかし，施工時に誤って重機で史跡境界線を越えて掘削してしまい，地下保存していた外郭南辺外大溝の一部を破壊し埋土断面が露出した（平成25年12月25日当市教委歴史文化課職員が現地確認時発見）。市教委は，現地史跡境界を越境していることを確認のうえ，12月27日に県教委生涯学習文化課史跡担当職員と共に毀損状況を確認，県教委は文化庁に一報を入れた。平成26年１月７日に振興局農村整備室は県教委に経過報告，１月８日に県教委生涯学習文化課と市教委歴史文化課は上京し文化庁担当官に報告，以後の対応について協議した。１月10日午後に県振興局農村整備室は現地にて記者発表を行い，後日知事も定例記者会見で本件を謝罪，新

聞・テレビ等で広く報道された。

調　　査　上記経過の中で，毀損状況の記録調査を当市教委が行った。1月28日には，調査結果報告と県教委・市教委の意見書と共に，復旧にかかる史跡現状変更申請・き損届・顛末書を，県振興局・県教委・市教委が上京し文化庁へ提出した。２月14日に文化庁から遺憾通知付きで復旧の現状変更が許可となった。

復　　旧　その後，遺構断面を養生し埋め戻された。

ＳＤ０１０外郭西辺外大溝跡（第8図）

毀損状況　ＳＤ０１０外大溝跡は，約5.0㎡にわたり重機による掘削により毀損し，その底面の一部のみが残存していた。断面の記録調査は可能であったが，底面については，既に施工されたコンクリート構造物や砕石敷により攪乱され，平面形の検出は不可能であった。出土遺物は確認できなかった。

規　　模　本調査区は，ＳＤ０１０外大溝跡を西南西から東南東に斜めに横断しており，遺構の南側上端のみが検出され，北側上端は調査区外となる。溝跡の上端幅は14.0m以上，下端幅は7.1m以上と考えられる。現地表面から遺構検出面までの深さは0.7m前後，検出面から溝底面までの深さは1.6mを測る。

埋　　土　埋土は自然堆積であり，Ａ～Ｄ層に分層される。Ａ層は暗褐色土を中心とし，褐色シルトが粉状にわずかに混じる。Ｂ層は褐色シルトを中心とした水成堆積であり，外郭西辺等でも確認されている大規模洪水層と考えられる。Ｃ層は黒褐色土を中心とし，褐色シルトを粉～粒状に混じる。Ｃ層下部には十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスが混じる層がある。Ｄ層は溝壁面直下に堆積し，褐色シルトと黒褐色土を中心に，径3～10cmの礫が混じるものであり，外大溝外側に盛られていた土塁や溝壁面崩壊土と考えられる。

6　郭内北部（第110次調査）

位　　置　第110次調査は，個人住宅建替えに係る現状変更に伴う事前調査として実施した。当該地は志波城跡の郭内北部にあたり，平成2年度(1990)に志波城期（9世紀初頭）と考えられる掘立柱建物跡3棟，竪穴建物跡1棟などを確認した第51次調査区から約60m西に位置する。志波城北部に入り込む旧河川（運河と想定）の北方にあり，荷揚げ施設等の建物跡が存在する可能性があった。

調査内容　住宅建築範囲を重機により表土除去し，現地表面下45～50cmの褐色シルト上面で遺構の有無を確認したが，遺構・遺物とも検出されなかった。当該地の南に隣接する昭和57年度(1982)の第25次調査，南西約30mに位置する平成11年度(1999)の第84次調査でも遺構・遺物が検出されておらず，周辺が志波城郭内北部における遺構密度の非常に薄い地区であったことが確認された。

第３章　総括

１　調査のまとめ

平成23～25年度は，第105～110次調査を実施し，第2章に記述した結果が得られた。以下，遺構の検出された第105～109次調査の内容を総括する。

第105次調査

第105次　郭内北部・北東部で実施した第105次調査では，平安時代初頭の竪穴建物跡7棟（兵舎，ＳＩ４６１～４６７），古代以降の土坑4基（ＳＫ８５８～８６１）・溝跡3条（ＳＤ８２９～８３１）などを検出した。

竪穴建物　3・4区で確認された竪穴建物跡のうち，全体形を検出したのはＳＩ４６６とＳＩ４６７のみであり，一辺は3.3～4.3mを測る。竪穴建物跡の検出面からは9世紀前葉の特徴を示す須恵器坏が出土し，いずれも志波城期の兵舎と考えられる。ＳＩ４６１を3区で最も西に検出し，外郭東辺築地線から約155mに位置するが，これまで兵舎（竪穴建物）は外郭築地線の内側約100m付近までしか検出されておらず，郭内北東部においては兵舎域が大きく西側（城内側）に広がっていたようである。

第106次調査

第106次　外郭東辺南部で実施した第106次調査では，ＳＤ１３０築地外溝跡を検出した。

築地外溝　外郭東辺の築地外溝跡は，調査区西側隣接の県道盛岡和賀線下を築地線とする想定通りの位置に検出され，推定溝幅約7m，検出面からの深さ1.0mを測る。またその断面形も，底面から急峻に立ち上がり，途中から屈曲して傾斜を緩くするという，外郭東辺他地点の過去の調査成果と共通する規格的なものであった。

第107次調査

第107次　外郭西辺北部で実施した第107次調査では，ＳＦ１７０築地線，ＳＤ１７０築地外溝跡，ＳＤ０７０外大溝跡，ＳＸ０７０土塁跡などを検出した。

築地線　ＳＦ１７０築地線は，Ａ区東端を南北に通るものであるが，直接的な痕跡である築地本体の積み土や基壇，掘り込み地業などは検出されず，地山黒色土・暗褐色土が非常に硬く締まっている状況が確認された。なお，築地線西側に掘立柱の掘方は検出されず，Ａ区内には掘立柱の櫓が建築されなかったことが確認された。

築地外溝跡　ＳＤ１７０築地外溝跡は，築地線の西側に確認され，検出面での溝幅がＡ区南端で3.9m，北端で6.4mと調査区内で大きく変化しており，検出面からの深さもＡ区南端では0.85mを測るが，北端ではそれ以上と推定される。埋土はＡ・Ａ'～Ｆ層に大別され，上部のＡ・Ａ'層が褐色シルトを主体とした水成堆積層（大規模洪水層），ほぼ中間にあたるＤ層は灰白色粉状パミスが混じる黒色土層であり，十和田ａ火山灰［To-a,915年降下］と考えられる。

外大溝跡　ＳＤ０７０外大溝跡は，Ｂ区中央部を南北に走り，溝幅は本来4.5m前後あったものと推定された。検出面からの深さは，Ｂ区北端で1.7mを測り，基盤の砂礫層を掘り込んでいる。埋土は，Ａ～Ｈ層に大別され，Ｃ層が褐色シルトを主体とした水成堆積層（大規模洪水層），Ｅ層は十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスが多く混じる黒褐色土層であり，それぞれＡ区ＳＤ１７０築地外溝跡のＡ層，Ｄ層に対比される。

土塁跡　ＳＸ０７０土塁跡は，Ｂ区北西隅に地山黒色土の盛り上がりとその上の積み土状土（薄く締った褐色シルト）が幅約0.7mで検出されたものである。

第108次調査

第108次　外郭西辺中央部で実施した第108次調査では，ＳＦ１７０築地線，ＳＤ１７０築地外溝跡，ＳＤ０７０外大溝跡などを検出した。

築地基壇　外郭築地塀本体はＡ区東側に隣接する市道内にあったと推定され，調査区内では基壇版築の積み土（ＳＸ１７３）が検出された。なお，調査区内に掘立柱の掘方は検出されず，Ａ区内には掘立柱の櫓が建築されなかったことが確認された。

築地外溝跡　ＳＤ１７０築地外溝跡は，ＳＦ１７０築地線の西側に確認され，検出面での溝幅は推定7～8m，検出面からの深さはサブトレンチにおいて1.65mを測る。埋土はＡ～Ｆ層に大別され，上部のＡ層が褐色シルトと砂が互層状となる水成堆積層（大規模洪水層），黒色～暗褐色土のＢ層をはさんでその下のＣ層は十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスが多く混じる暗褐色土層である。

外大溝跡　ＳＤ０７０外大溝跡は，Ｂ区中央部を南北に走り，検出面での溝幅は5.2m，検出面からの深さはサブトレンチにおいて1.75mを測り，基盤の砂礫層を掘り込む。埋土はＡ～Ｉ層に大別され，埋土上半1.1mのＡ～Ｃ層が褐色シルトを主体とした厚い水成堆積層（大規模洪水層），黒褐色～暗褐色土のＤ・Ｅ層をはさんでその下のＦ層は十和田a火山灰と考えられる灰白色粉状パミスが多く混じる。

第109次調査

第109次　外郭南辺西部で実施した第109次調査では，ＳＤ０１０外大溝跡の断面を検出した。

外大溝跡　ＳＤ０１０外大溝跡の遺構検出面からの深さは1.6mを測り，Ａ～Ｄ層に大別される土層が観察された。このうちＢ層は褐色シルトが主体の水成堆積層であり，外郭西辺の第107・108次調査の所見から，大規模洪水層と考えられる。また，Ｃ層下部には黒褐色土に灰白色粉状パミスの多く混じる層があり，十和田ａ火山灰と考えられる。

2　外郭西辺の門と櫓の配置

調査履歴　平成25年度までに外郭西辺築地線沿いでは，第5次調査（昭和52年，『方八丁概報77』，本書第21・22図に再掲載），第104次調査（平成22年，『志波城概報10』），そして本書掲載の第107・108次調査を実施しているが（第9図），いずれの調査区からも掘立柱の掘方は確認されておらず，その配置を直接的には知ることが出来なかった。以下，門と櫓について同年代に陸奥国北部に造営された胆沢城跡と徳丹城跡の調査成果を確認する。

胆沢城跡　奥州市に所在する胆沢城跡は，延暦二十一年（802）に坂上田村麻呂により造営され，大同三年(808)には鎮守府が多賀城より移転している。これまでの調査により，外郭東西辺で櫓が確認されているが，外郭東西門は未確認である（高橋2004）。櫓配置は約67m（225尺）間隔の可能性が考えられており，櫓構造は築地塀をまたぐ掘立柱形式である。

徳丹城跡　矢巾町に所在する徳丹城跡は，弘仁三年（812）に文室綿麻呂により造営され，志波城廃絶後の後継城柵として機能した。これまでの調査により，外郭四辺で櫓・門が確認されている（西野2004）。門は四辺とも三間一戸の八脚門であり，政庁から外郭にのびる城内大路も確認されている。櫓配置は約70m（235尺）間隔であり，櫓構造は築地塀（一部は丸太材木塀）をまたぐ掘立柱形式である。

志波城跡　上記２城柵の調査成果から，志波城跡外郭西辺の設計は以下のように推定される。

- **外郭西門の位置**：城内西大路は検出されていないものの，徳丹城跡の例から，外郭西門の位置は，政庁西門（ＳＢ５７０）から直線的に外郭築地線（ＳＦ１７０）に向かう位置と推定される。なお，外郭西門の形式については，徳丹城跡の例から，五間一戸の櫓門（外郭南門と同規模）または三間一戸の八脚門（政庁南門と同規模）と考えられるが，政庁の例から南辺を重視する設計であったとすれば，八脚門であったと推定される。
- **外郭西辺櫓の構造**：胆沢城跡・徳丹城跡ともに外郭東西辺の櫓構造は外郭南辺と同様であることから，外郭西辺櫓の構造は，外郭南辺と同様の築地塀をまたぐ桁行2間・梁行1間の掘立柱形式と推定される。
- **外郭西辺櫓の配置**：徳丹城跡の例から，外郭西辺櫓の配置は，外郭西門も含めほぼ等間隔であったと推定される。

以上の推定される設計をもとに，第5・104・107・108次調査地点に掘立柱が検出されなかったという条件を加えると，志波城跡の外郭西辺の様相は以下のように想定される。

外郭西門（推定三間一戸八脚門）の南に3基（南西隅を除く）・北に6基（北西隅を除く）の築地塀をまたぐ掘立柱櫓が，約76.5m（255尺）間隔で建ち並ぶ。

上記の想定は，外郭南辺における外郭南門（五間一戸櫓門）の東西に各7基（南西・南東隅を含む）の築地塀をまたぐ掘立柱櫓が，約60m（200尺）間隔で建ち並ぶという調査成果と比

較すると，外郭西辺の櫓間隔は16.5m（55尺）長い。また，胆沢城跡・徳丹城跡の外郭櫓間隔よりも少し長いということになる。しかし，これはあくまで現時点での状況証拠から推定を重ねたものであり，その事実の解明のためには今後，以上の内容を検証する発掘調査を計画的に実施していく必要がある。

【引用文献】

高橋千晶　2004「胆沢城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編　高志書院
西野　修　2004「徳丹城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編　高志書院

3　大正・昭和初期のガラス瓶（サクラビール）

ガラス瓶　平成24年度の第107次調査において，遺構外表土の出土遺物ではあるが，「サクラビール」と浮き出し文字のある特徴的なガラス瓶が出土した。

特　　徴　瓶の特徴を観察すると，高さ28.5cm，口径2.5cm，肩幅8.3cm，底面径7.0cmであり，底部の一部が削られ，全体的に引っ掻き傷があるほかは完形であり，いかり肩の所謂「大瓶サイズ」のビール瓶である。瓶色は，よく見られる茶色ではなく緑色であり，肩部に右読みで「登録商標」の浮き出し文字とともに桜花のマークが陽刻され，胴部下端には「SAKURA BEER」と右読みで「サクラビール」の浮き出し文字，底面には「TGC」の浮き出し文字がある。ラベルは残存していない（写真第23図版）。このサクラビールとは，いつどこで製造されたビールなのか。

サクラビール　今から約100年前の明治45年(1912)，福岡県門司市(現北九州市門司区)の山田弥八郎らが，当時隆盛を誇っていた神戸の鈴木商店の援助を受け，「帝国麦酒株式会社」を設立，翌大正2年(1913)には工場が完成してビール醸造を開始した。この九州に初めて誕生したビールのブランド名が「サクラビール」であった。

ビール小史　日本におけるビール醸造の歴史は，大きく分けて横浜と札幌で始まり，横浜で設立されたのが後の「麒麟麦酒株式会社」であり，ブランド名を「キリンビール」として現在に至る。一方，札幌で設立されたのは「札幌麦酒会社」であるが，明治39年(1906)に「日本麦酒株式会社」「大阪麦酒株式会社」と3社合併して「大日本麦酒株式会社」となり，ブランド名を「サッポロビール」「エビスビール」「アサヒビール」とした（神奈川県立歴史博物館2006）。大正3年(1914)に始まった第一次世界大戦は日本に好景気をもたらし，日本製のビールは海外輸出が本格化すると同時に国内消費の拡大が加わり，業界は活況を呈した。そのような中で登場した「サクラビール」は人気を博し，最盛期には国内シェア9%，国内第3位となるほどであった。当時，ビールという洋風な商品を人々にアピールするため，所謂「美人画ポスター」が飲食店や小売店の店頭に盛んに掲示されたが，「サクラビール」も多くポスターを印刷した（サッポロビール博物館1998）。現存するものは，約100～80年を経てレトロポスターとして市場流通し人気を博している（写真第24図版）ほか，大正～昭和初期の世相を示す小道具として舞台や映画の背景に登場することもある。創業後の会社の経緯をたどると，昭和4年(1929)に社名を「桜麦酒株式会社」に改称したが，昭和18年(1943)に大日本麦酒株式会社と合併することとなり，それに伴い30年続いた「サクラビール」のブランドは消滅してしまった。

瓶　製　造　次に，瓶底面の「TGC」の浮き出し文字についてであるが，一般に瓶の底面には製瓶メーカーの略号や記号がつけられることが多い。日本で初めて本格的な国産ビール瓶の製造に成功したのは「有限責任 品川硝子会社」であり，明治22年(1889)のことであった（山本1990）。当時はまだ職人がガラスを吹く方法で瓶が製造され，日本人のほかドイツ人の職工が月産8～9万本の瓶を製造，その多くが「キリンビール」に採用された。しかし，その当時でもビール瓶は輸入ビールの空き瓶(古瓶)と輸入した瓶(新瓶)に頼っていたのが実情であり，特に輸入の新瓶は高価であった。そのような中，明治23年(1890)に設立された「田中硝子会社」は良質な国産

ビール瓶の製造に成功し，輸入の新瓶より安く納入することで明治36年(1903)には月25万本のビール瓶を供給した。やがて田中硝子のつくる日本製のビール瓶は，海外へ輸出されるまでに成功する。田中硝子会社は，明治31年(1989)に改組して「東洋硝子株式会社」と改称し，大日本麦酒株式会社が東京で製造する「エビスビール」と「アサヒビール」が東洋硝子のビール瓶に詰められた。このような経過からすると，「TGC」は東洋硝子株式会社の英語表記の頭文字を使った略号と考えられ，そのビール瓶の供給先が九州の「サクラビール」へも延びていたことが推察される。なお，瓶色の違いについては参考とできる文献に当たることが出来なかったが，当時のビール広告ポスターに描かれる瓶色はすべて茶色であり（サッポロビール博物館1998），緑色は少数派だったと思われる。

埋没経過　以上，第107次調査出土のビール瓶は，大正時代に九州初のビールとして誕生した福岡県北九州市門司に工場があった帝国麦酒株式会社（のちに桜麦酒株式会社に社名変更）の「サクラビール」の緑色のビール瓶であることがわかった。それではなぜ，九州から遠く離れた岩手県盛岡市の農村地帯の一画に，このビール瓶が埋没することになったのであろうか。考えられる可能性はいくつかある。ビール瓶に限らず，空き瓶そのものは転用されることが多く，昔の地方の清涼飲料水(地サイダーなど)会社では数多く流通していた当時の「三ツ矢サイダー」瓶に自社ラベルを貼って使用しており，「サクラビール」瓶に形状が同じ大日本麦酒株式会社の「サッポロビール」や「アサヒビール」のラベルが貼られて岩手，盛岡に来た可能性がある。あるいは，九州の「サクラビール」瓶そのもの（もちろん当時はラベル付きであったと思われるが）を珍しいものとして盛岡の自宅に持ってきたが，事情を知らない家人が廃棄してしまった，とも考えられる。この瓶の製造から廃棄までの間に，どのようなストーリーがあったのだろう。

登録文化財　なお，「サクラビール」が製造されていたレンガ造りの工場施設は，平成12年(2000)までサッポロビール門司工場(九州工場)として稼働していたが，現在は「門司赤煉瓦プレイス」という集客施設として整備され（国登録有形文化財「旧帝国麦酒門司工場」），資料館（北九州市門司麦酒煉瓦館）やレストラン，地域交流施設となっている。

復刻ビール　また，平成24年3月までの期間限定で「門司港地ビール工房」という地元会社が，サッポロビール株式会社所有の成分表をもとに「サクラビール」を復刻販売し，大正時代のラベルも復刻された。その復刻ラガービールの特徴は，「糖度高く，芳醇なる香味，淡い琥珀色にて色沢鮮麗」だそうである。

【引用・参考文献】

麒麟麦酒株式会社　1983『ビールと日本人　明治・大正・昭和ビール普及史』
神奈川県立歴史博物館　2006　『日本のビール－横浜発 国民飲料へ－』
神原雄一郎　2011　「盛岡の地中から発見されたガラス瓶 - 明治から昭和にかけてのガラス瓶 -」平成 23 年度遺跡の学び館学芸講座「発見された盛岡のまち 1」配布資料
サッポロビール博物館　1998『ビールのポスター』
津嶋知弘　2012　「大正・昭和初期のビール瓶と美人画ポスター　－史跡志波城跡第 107 次調査区表土出土のビール瓶と関連広告ポスターについて－」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.1（盛岡市ホームページ）
山本孝造　1990　『びんの話』　日本能率協会

第２表　第105・107次調査出土土器観察表

								形態		出土		寸法 (cm)						底部切離等	器面調整		特徴
図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	口径／底径	口径／器高		外面	内面	
6	01	22	志波城	OSW	105	SI461	1	須恵器	坏	土器 No.1	検出面	4.6	13.3	—	7.0	1.9	2.9	回転ﾍﾗ切り後ﾍﾗﾅﾃﾞ再調整	—	—	クリーム色胎土
6	02	22	志波城	OSW	105	SI461	2	須恵器	坏（小型）	土器 No.2	検出面	4.0	9.5	—	6.2	1.5	2.4	回転ﾍﾗ切り後一部ﾍﾗﾅﾃﾞ再調整	—	—	底面に火襷
6	03	22	志波城	OSW	105	４東区	1	須恵器	坏（小型）	遺構外	検出面	3.7	8.9	—	5.2	1.7	2.4	ﾍﾗｹｽﾞﾘ再調整	体部下端へラケズリ	—	外面・底面に火襷，外面一部・内面に漆状有機質膜付着
								形態		出土		寸法 (cm)						底部切離等	器面調整		特徴
図	番号	写真図版	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	区分	器種	平面位置	層位	器高	口径	体径	底径	口径／底径	口径／器高		外面	内面	
15	04	22	志波城	OSW	107	SD170	1	須恵器	坏	サブトレンチ３	E2	4.3	13.9	—	7.0	2.0	3.2	回転糸切無調整	—	—	クリーム色胎土

第３表　第106次調査遺構土層観察表

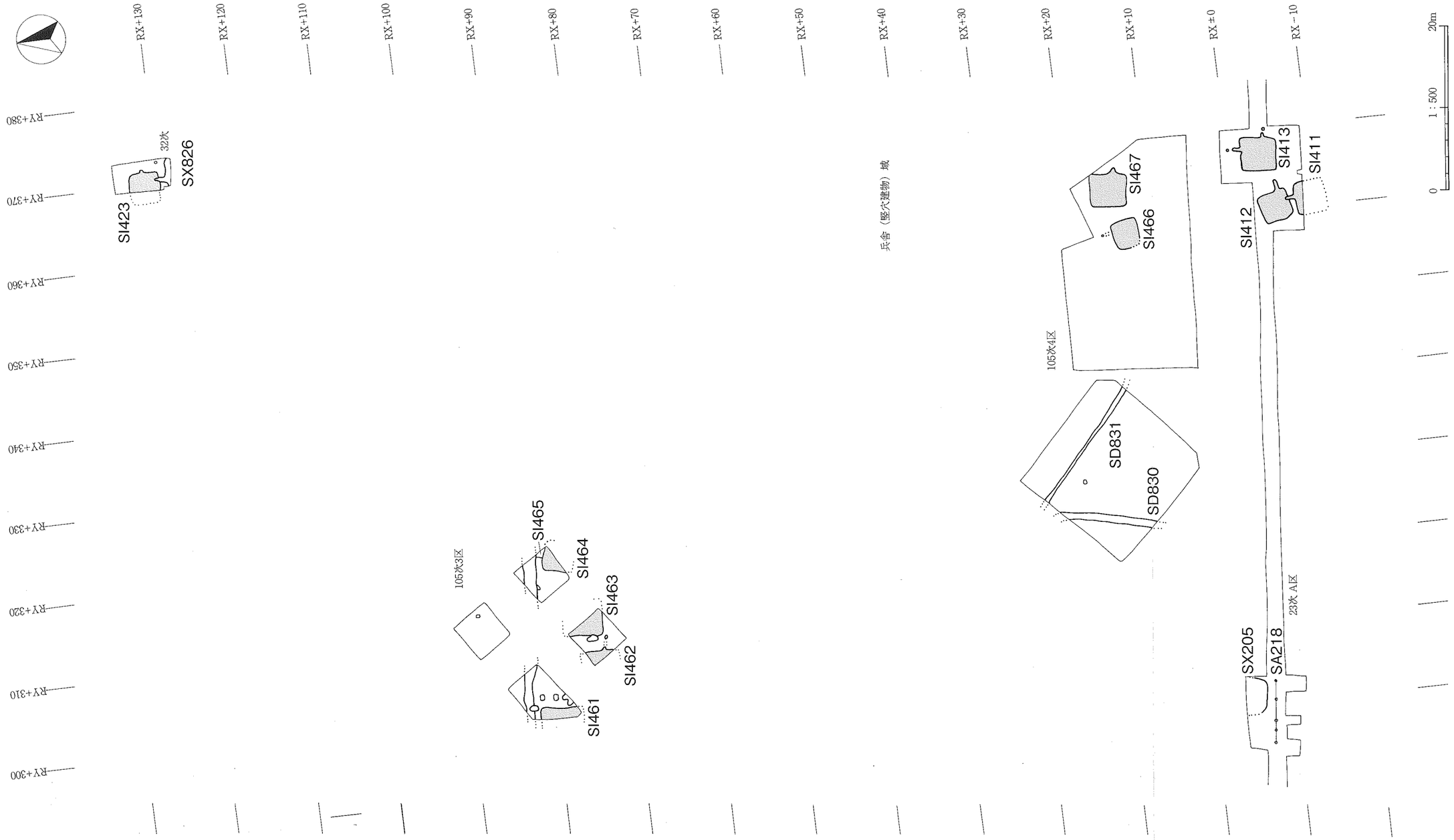
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性（略号）	土色 (JIS)	土性（略号）	状態	%			
SD130	A1	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	5	－	－	
築地外溝跡	A2	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20	－	－	
（北トレンチ）	A3	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2-2/1 黒褐～黒色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	30	－	－	
	B1	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	5	－	－	
				灰白色	粉状パミス	極わずか				十和田ａ火山灰
	B2	10YR2/2-2/1 黒褐～黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	10	－	－	
	B3	10YR3/3-2/3 暗褐～黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	10	－	－	
	B4	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～粉状	20	－	－	
	B5	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20	－	－	
	C1	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	40	－	－	
	C2	10YR2/2-2/1 黒褐～黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	40	－	－	
	C3	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	50	－	－	
	C4	10YR2/2-2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	50	－	－	
	D1	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	30	－	－	築地崩壊土
	D2	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	50	－	－	築地崩壊土
				10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	30			
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性（略号）	土色 (JIS)	土性（略号）	状態	%			
SD130	A1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	5	－	－	
築地外溝跡	A2	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20	－	－	
（南トレンチ）	A3	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	5	－	－	
	A4	10YR2/2-2/1 黒褐～黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	10	－	－	
				10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	10			
	B1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6-4/4 褐色	粉状パミス	粉～塊状	30	－	－	十和田ａ火山灰
	B2	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	10	－	－	
	B3	10YR3/3-2/3 暗褐～黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	20	－	－	
	B4	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	－	5	－	－	
	B5	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1-2/2 黒～黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	10	－	－	
				10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	20			
	B6	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1-2/2 黒～黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	－	－	－	
				10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	40			
	D1	10YR3/3-3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	50	－	－	築地崩壊土
	D2	10YR3/3-3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	30	－	－	築地崩壊土
	D3	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3-2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～塊状	50	－	－	築地崩壊土
	D4	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	40	－	－	築地崩壊土
	D5	10YR3/3-3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	－	－	－	築地崩壊土
	D6	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	40	－	－	築地崩壊土
				10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	5			
	E1	10YR2/1-2/2 黒～黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	塊状	30	－	－	
	E2	10YR4/4-4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	30	－	－	
				10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	30			

第４表　第107次調査遺構土層観察表

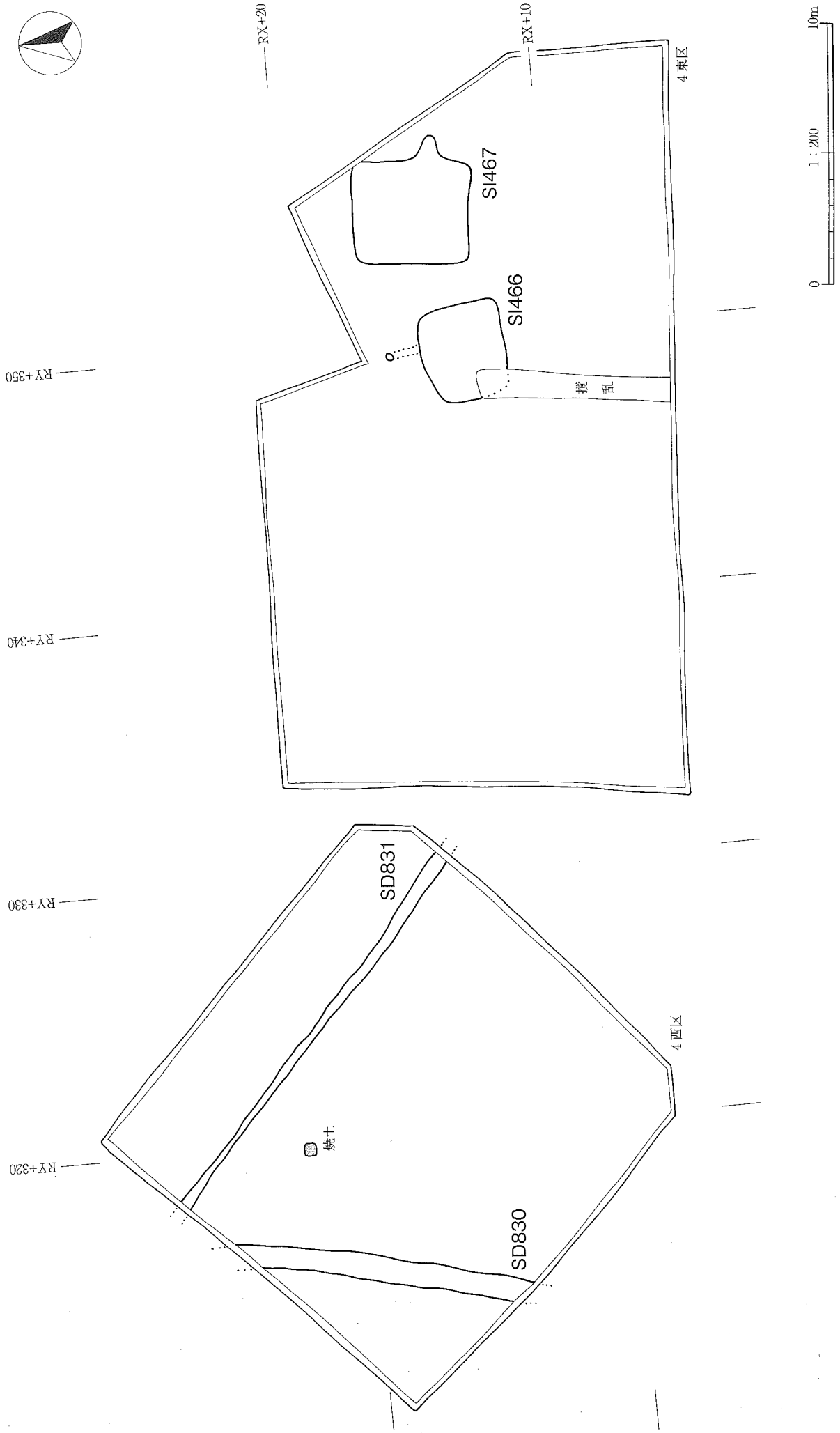
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SD170 築地外溝跡	A1	10YR3/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	硬	中	水成堆積
				10YR4/6 褐色	SL 砂壌土	粒状	5			
	A2	10YR4/6 褐色	SL 砂壌土	10YR3/2 黒褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	15	軟～中	粗～中	水成堆積
				10YR4/4 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	5			
				10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	3			
	A'1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	20	中～硬	中	
				10YR4/6 褐色	SL 砂壌土	粒～塊状	10			
	A'2	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中	粗～中	水成堆積
				10YR4/4 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	5			
	B1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	20	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR4/6 褐色	SL 砂壌土	粒～塊状	10			
	B'1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	20	中～硬	中	
				10YR4/4 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	7			
	B'2	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	20	中～硬	中	
				10YR2/2 黒褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	5			
	C1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中～硬	中	砂礫混じる
	C2	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	3			
	D1	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中～硬	中	
				灰白色	火山灰（粉状パミス）		15			十和田ａ火山灰
	E1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	硬	密	砂礫多量に混じる
	E2	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	5	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR2/3 黒褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	7			
	F1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	3	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR4/4 褐色	SL 砂壌土	粒～塊状	3			
	F2	10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR4/4 褐色	SL 砂壌土	粒～塊状	5			
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SX172 築地線地業	J1	10YR5/6 黄褐色	SiL シルト質壌土	10YR3/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	中～硬	中	人為堆積
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	7			
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SD070 外大溝跡	A1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	12	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒状	5			
	B1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中～硬	中	砂礫少量混じる
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒状	5			
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	3			
	C1	10YR3/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	中	中	水成堆積
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	7			
	C2	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	中	中	水成堆積
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	5			
	C3	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	硬	中	水成堆積
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒状	3			
	D1	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	7	中～硬	中	砂礫少量混じる
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	5			
	E1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	5	中～硬	中	砂礫混じる
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	3			
				灰白色	火山灰（粉状パミス）		10			十和田ａ火山灰
	F1	10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	中～硬	中	砂礫多量に混じる
	G1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	中	中～密	
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	7			
	G2	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	20	中	中～密	
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒状	3			
	G3	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR1.7/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	中	中～密	
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	10			
	H1	10YR4/6 褐色	SCL 砂質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	7	中	中	土塁崩壊土
				10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	5			
	H2	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	12	中	中～密	土塁崩壊土
				10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	5			
	H3	10YR4/4 褐色	SL 砂壌土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	10	中～硬	中	砂礫多量に混じる
	H4	10YR4/4 褐色	SL 砂壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	15	中	中	土塁崩壊土
				10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	3			
	H5	10YR4/4 褐色	SL 砂壌土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	15	中	粗～中	砂礫多量に混じる
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SX070 土塁跡	A'1	10YR4/4 灰黄褐色	SiL シルト質壌土	10YR4/6 褐色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	15	硬	中	版築積み土
				10YR2/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10			

第５表　第108次調査遺構土層観察表

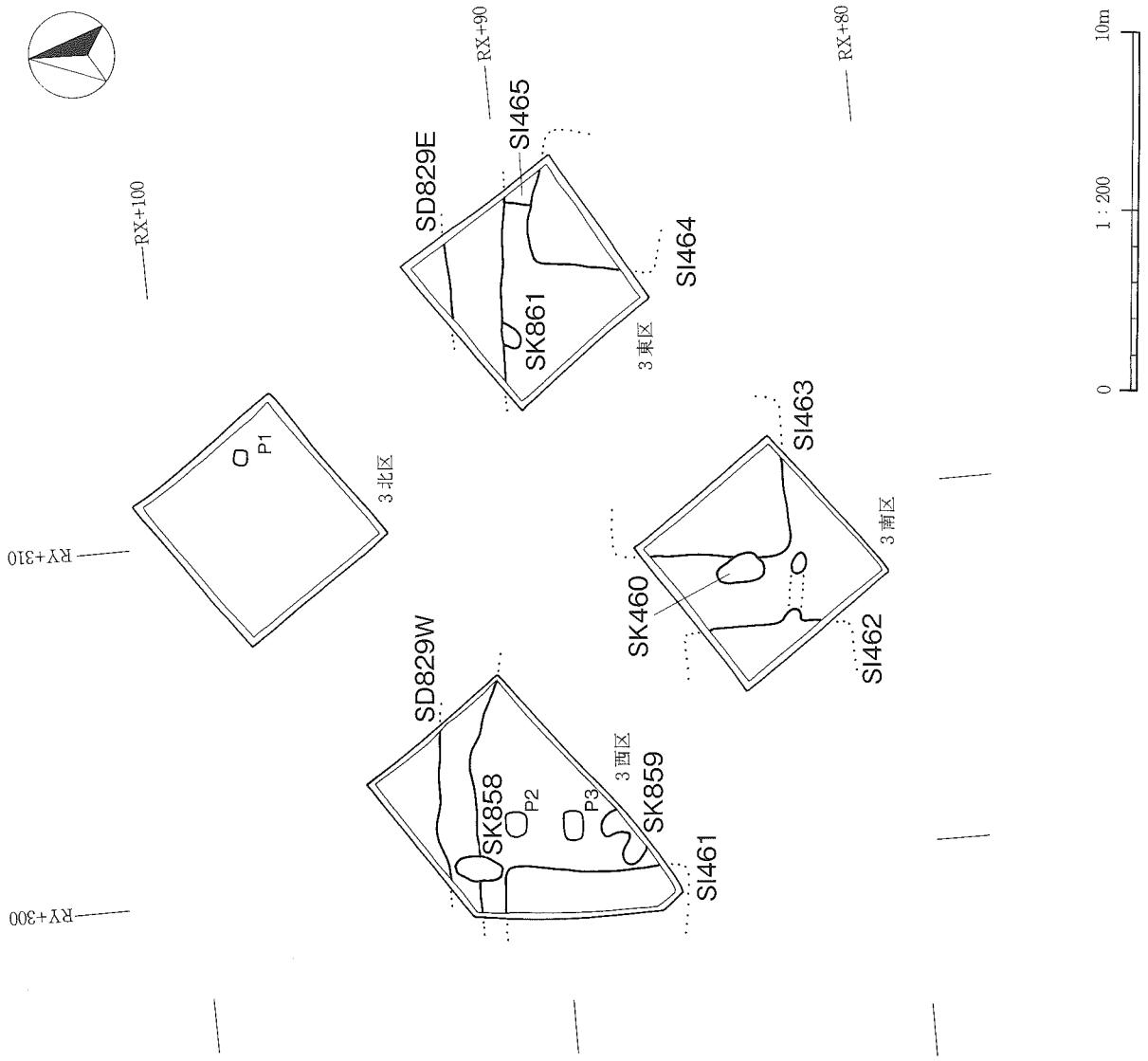
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SF170 築地線	H1	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	30	中～硬	中～密	築地崩壊土
	H1'	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	30	中～硬	中～密	築地崩壊土
	H2	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	10	中～硬	中～密	築地崩壊土
SX173 築地基壇	K1	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	20	非常に硬	密	基壇版築積み土
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	30			
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SD170	A1'	10YR6/6 明黄褐色	SiC シルト質埴土	10YR6/1 褐灰色	SiC シルト質埴土	粉状	50	硬	密	水成堆積 , 旧水田床土浸透
築地外溝跡	A1	10YR6/6 明黄褐色	SiC シルト質埴土	10YR7/4 にぶい黄橙色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	20	硬	密	水成堆積
	A2	10YR6/6 明黄褐色	SiC シルト質埴土	10YR5/2 灰黄褐色	SL 砂壌土	粒～塊状	50	硬	密	水成堆積 , 砂礫多く混じる , 酸化鉄あり
	A3	10YR5/4 にぶい黄橙色	SiC シルト質埴土	10YR7/4 にぶい黄橙色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	40	硬	密	水成堆積
	A4	10YR5/2 灰黄褐色	SiC シルト質埴土	10YR5/4 にぶい黄橙色	SiC シルト質埴土	粒～塊状	20	中～硬	中～密	水成堆積
	A5	10YR5/4 にぶい黄橙色	SiC シルト質埴土	10YR7/4 にぶい黄橙色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	30	中～硬	中～密	水成堆積 , 縞状酸化鉄見られる
	A6	10YR4/2 灰黄褐色	SiC シルト質埴土	10YR5/4 にぶい黄褐色	SiC シルト質埴土	筋状	40	中～硬	中～密	水成堆積 , ややグライ化 , 腐敗臭あり
	A7	10YR5/1 褐灰色	HC 重埴土	10YR5/4 にぶい黄褐色	SiC シルト質埴土	粉状	5	中～硬	中～密	水成堆積 , グライ化粘土 , 腐敗臭あり
	B1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	30	硬	密	
	B2	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20	硬	密	
	B3	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	5	硬	密	
	B4	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	30	硬	密	
	C1	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR7/3 にぶい黄橙色	粉状パミス	粒～塊状	30	硬	密	十和田ａ火山灰
	D1	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒～塊状	10	硬	密	
	D2	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/1 黒色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	10	硬	密	
				10YR5/4 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	10			
	E1	10YR5/4 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	10	硬	密	壁面崩壊土
	F1	10YR5/6 黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/2 黒褐色	HC 重埴土	粒～塊状	50	硬	密	版築貼り底
遺構名	層名	主要土		含有土				硬軟	密度	その他
		土色 (JIS)	土性 (略号)	土色 (JIS)	土性 (略号)	状態	%			
SD070	A1	10YR6/3 にぶい黄橙色	SiCL シルト質埴壌土	10YR6/6 明黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	5	硬	密	水成堆積
外大溝跡	B1	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	20	硬	密	水成堆積
	B2	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	10	硬	密	水成堆積
				10YR5/6 黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	30			
	B3	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	30	硬	密	水成堆積 , 礫少し混じる
	B4	10YR4/4 褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	20	硬	密	水成堆積
	B5	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20	硬	密	水成堆積
	B6	10YR3/4 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/6 褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20	硬	密	水成堆積
				10YR5/6 黄褐色	SiL シルト質壌土	粉状	30			
	C1	10YR5/6 黄褐色	SiL シルト質壌土	10YR6/4 にぶい黄橙色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	50	硬	密	水成堆積
	C2	10YR5/6 黄褐色	SiL シルト質壌土	10YR6/4 にぶい黄橙色	SiL シルト質壌土	粒～塊状	30	中～硬	中～密	水成堆積,
				10YR5/8 黄褐色	S 砂土	塊状	20			川砂が混じる
	C3	10YR5/6 黄褐色	SiL シルト質壌土	10YR6/8 明黄褐色	SiL シルト質壌土	塊状	10	中	中	水成堆積,
				10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	5			礫が少し混じる
	D1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	10	中	中	
	E1	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	5	中～硬	中～密	
	E2	10YR3/3 暗褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	5	硬	密	礫が多く混じる
	F1	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR6/3 にぶい黄橙色	粉状パミス	塊状	50	硬	密	十和田ａ火山灰
	G1	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/1 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	－	5	硬	密	礫が多く混じる
	H1	10YR4/3 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR3/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	塊状	20	硬	密	土墨崩壊土,
				10YR5/6 黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	塊状	20			礫が混じる
	H2	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR4/3 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	10	硬	密	土墨崩壊土
	H3	10YR4/3 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/2 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	30	硬	密	土墨崩壊土, 礫が多く混じる
	I1	10YR4/3 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	粒状	5	中～硬	中～密	壁面崩壊土,
				10YR5/6 黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	20			小礫・砂多く混じる
	I2	10YR2/3 黒褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR5/6 黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉状	10	中～硬	中～密	壁面崩壊土, 小礫・砂多く混じる
	I3	10YR4/3 にぶい黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	10YR5/6 黄褐色	SiCL シルト質埴壌土	粉～粒状	10	中～硬	中～密	壁面崩壊土, 小礫・砂多く混じる



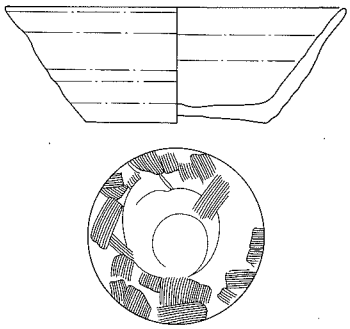
第３図　郭内北東部（第23次Ａ区，32次，105次３・４区）調査全体図



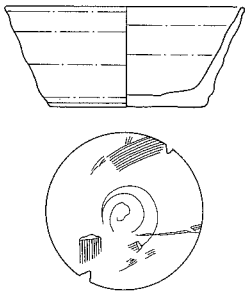
第４図　郭内北東部（第105次４区）調査全体図



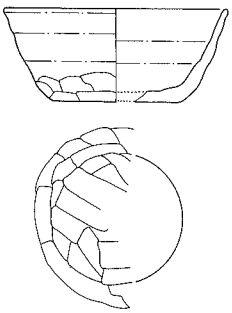
第５図　郭内北東部（第105次３区）調査全体図



01 須恵器坏－3 西区 SI461 検出面



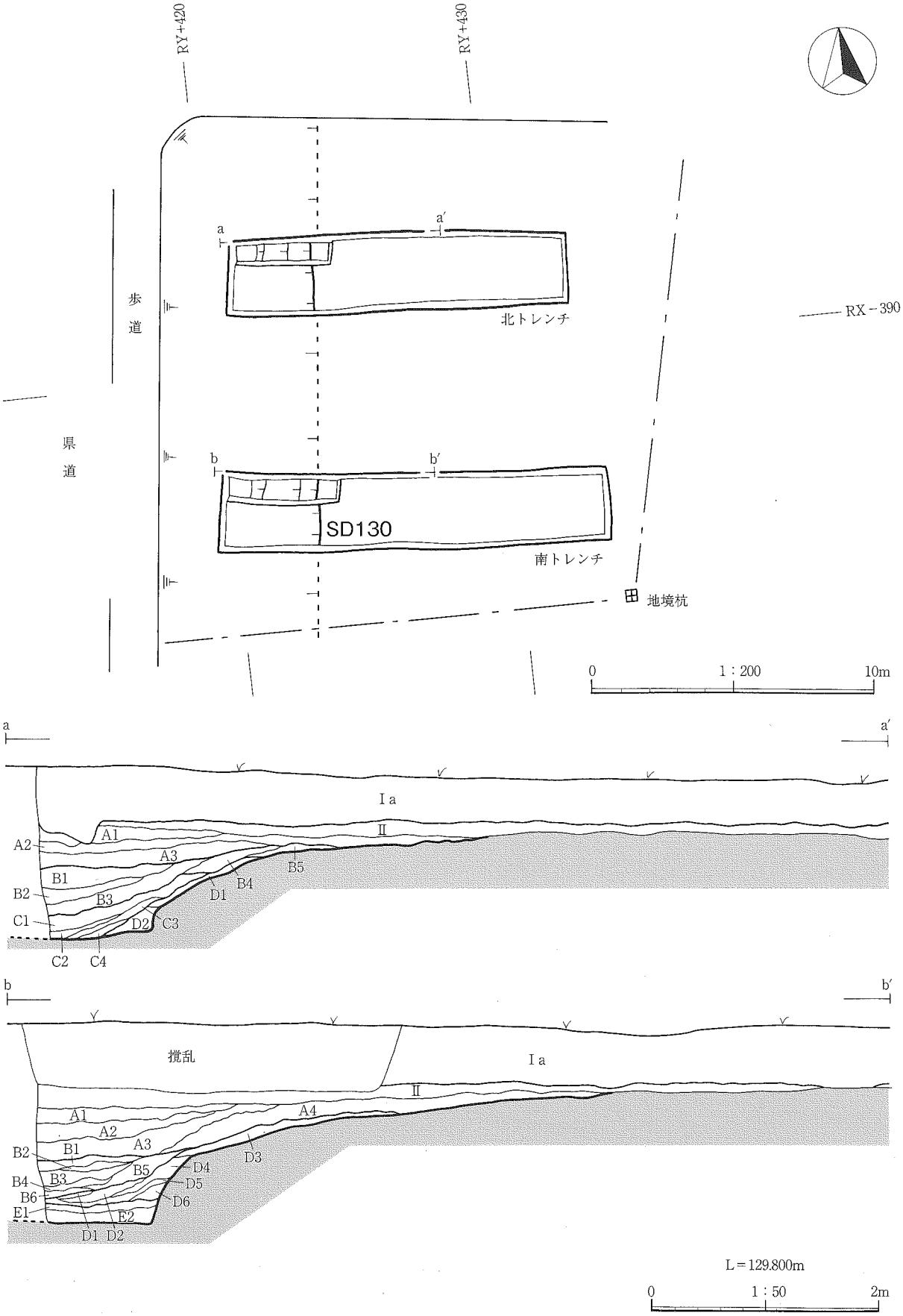
02 須恵器坏－3 西区 SI461 検出面



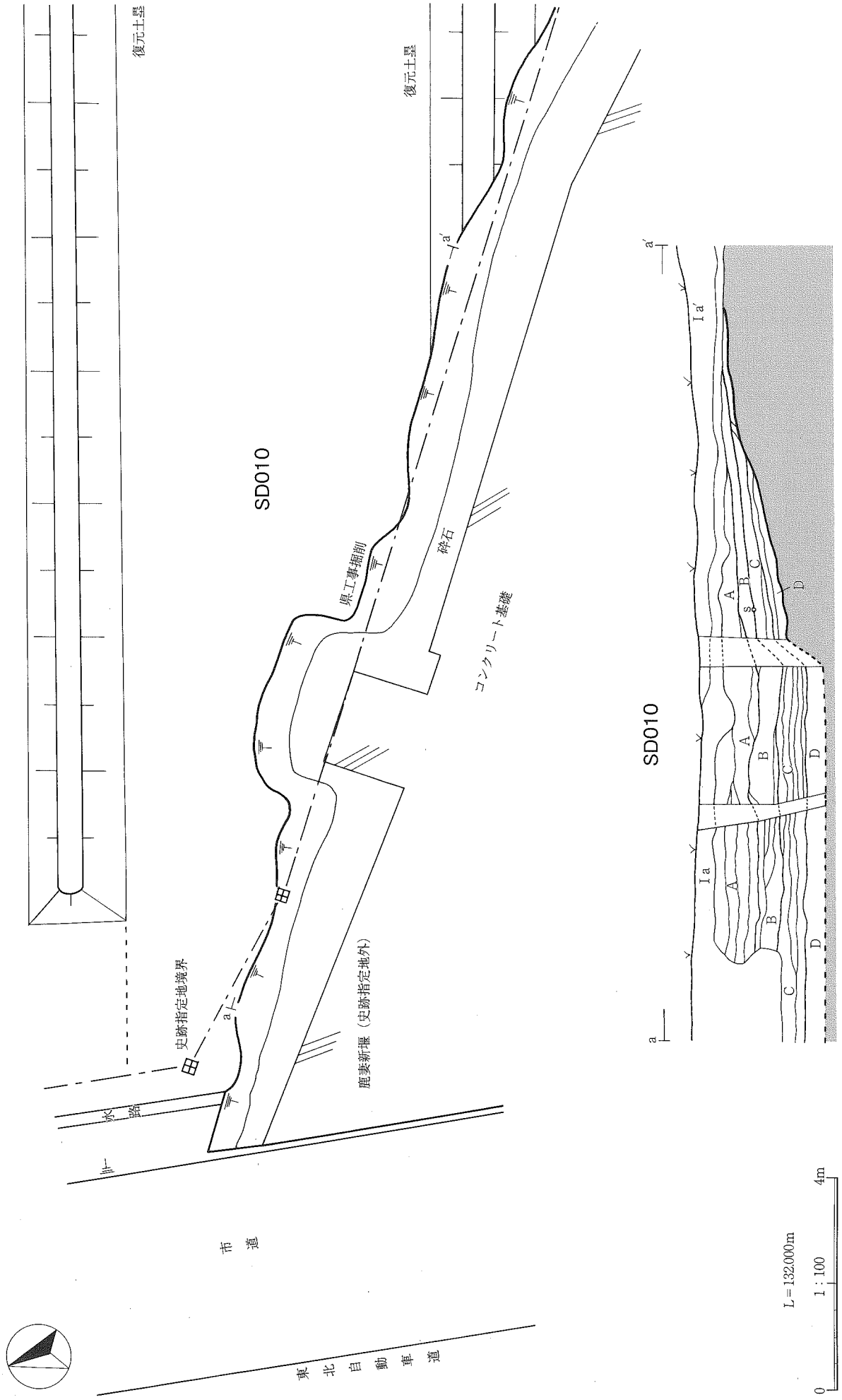
03 須恵器坏－4 東区遺構外

0　1：3　5cm

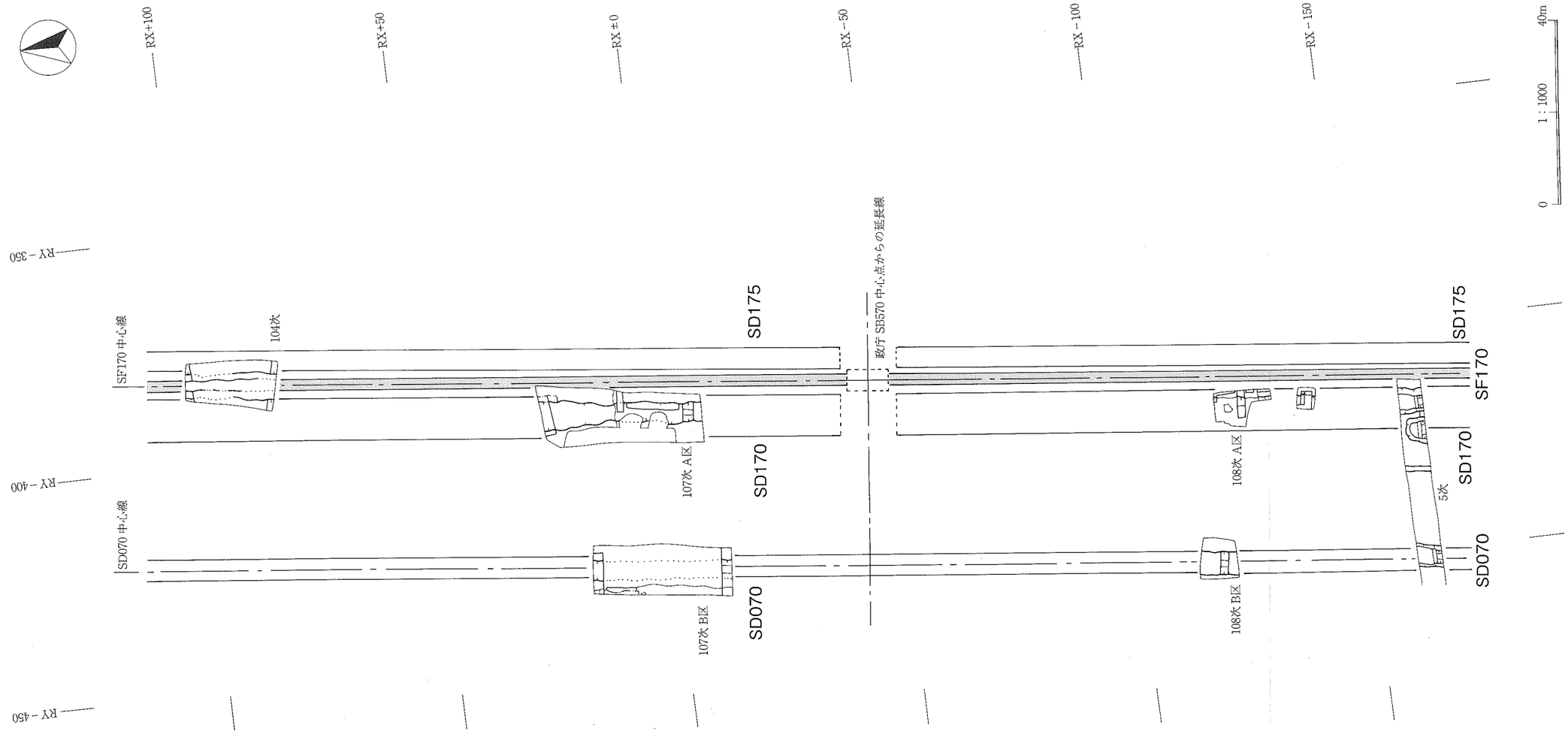
第６図　郭内北東部（第105次３・４区）調査出土土器



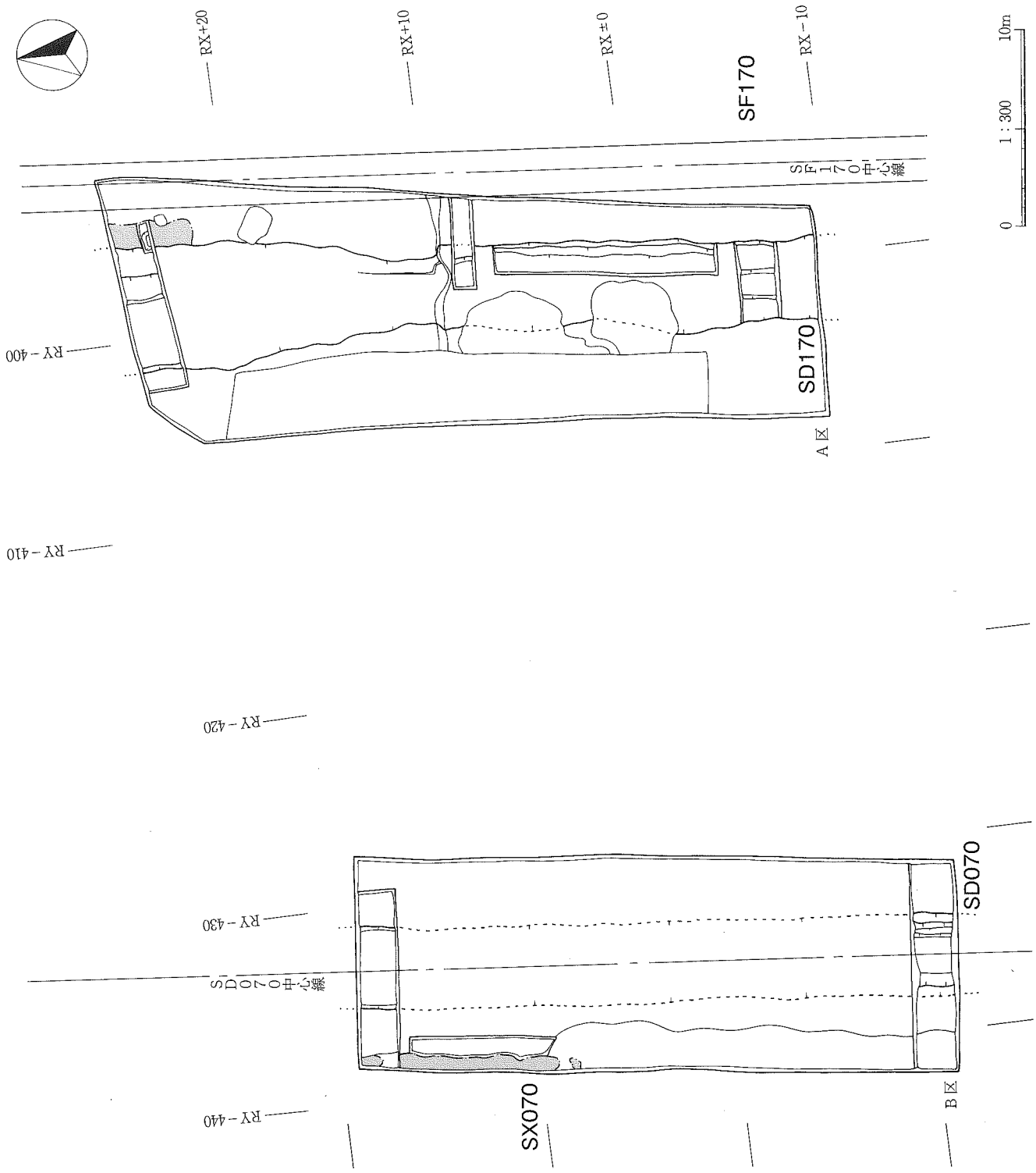
第７図　外郭東辺南部（第106次）調査全体図，SD130築地外溝跡



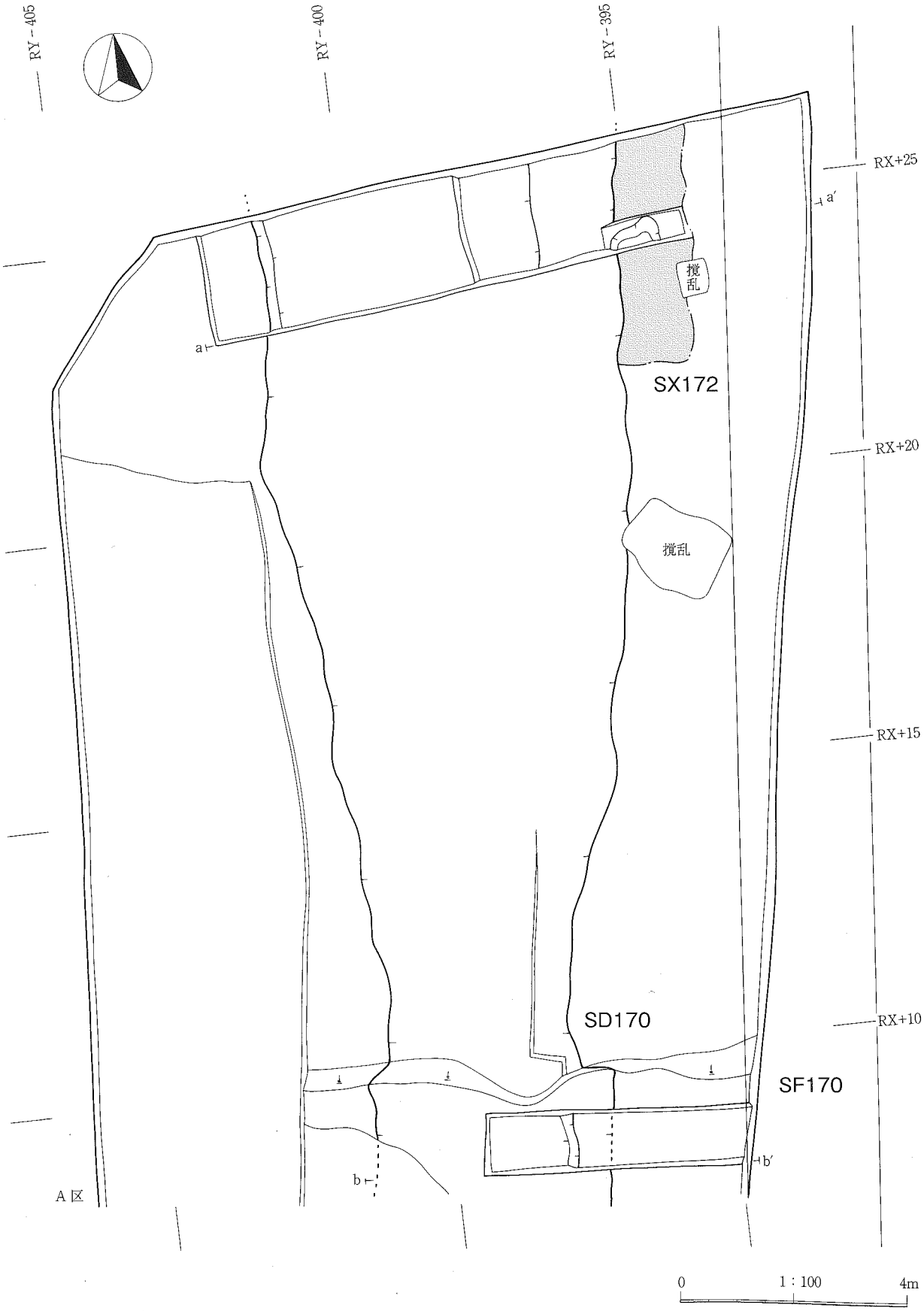
第８図　外郭南辺西部（第109次）調査全体図，SD010外大溝跡



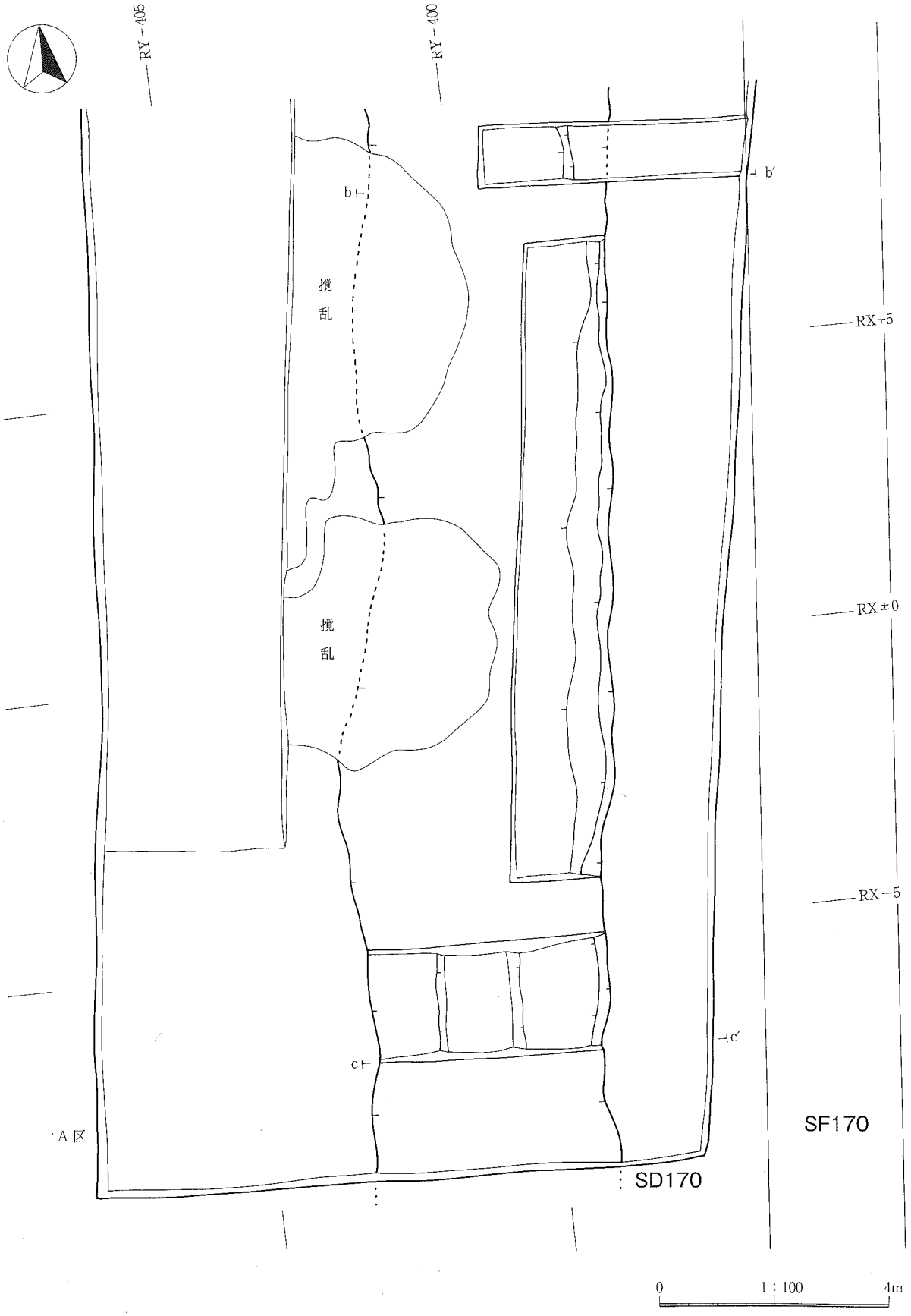
第９図　外郭西辺（第５次，104次，107次，108次）調査全体図



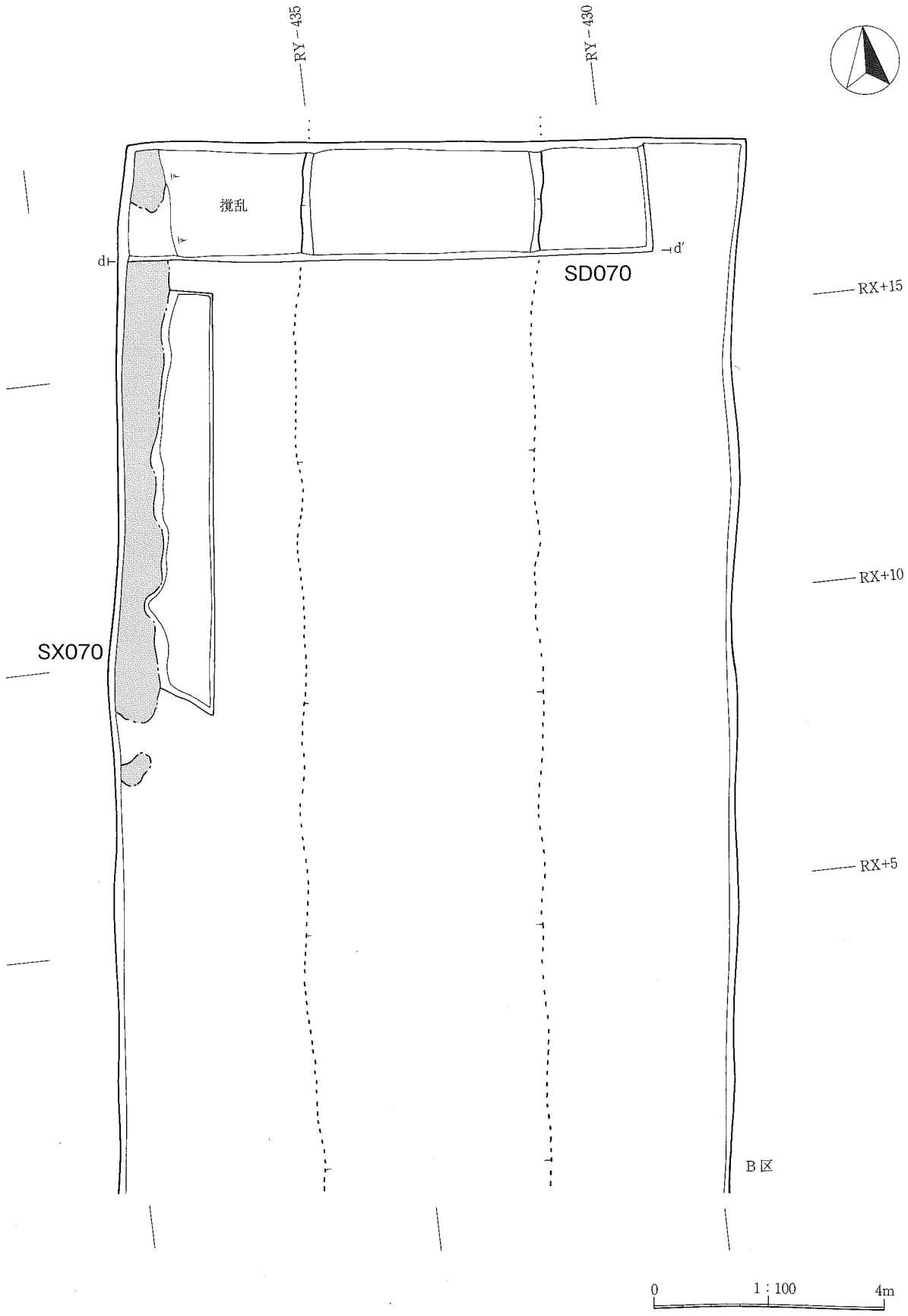
第10図　外郭西辺（第107次）調査全体図



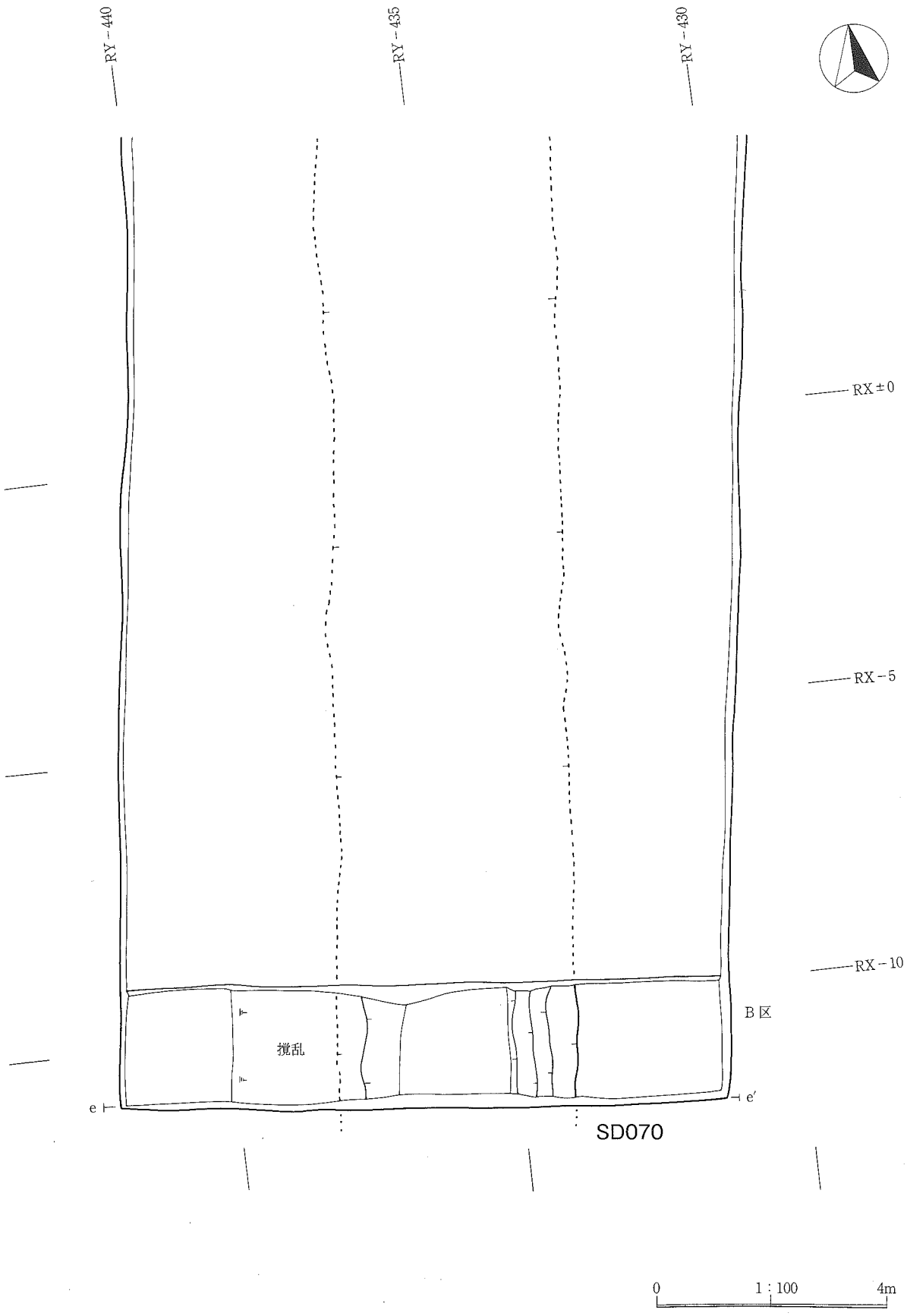
第11図　外郭西辺（第107次Ａ区北半部）調査　SD170築地外溝跡，SX172築地線地業跡



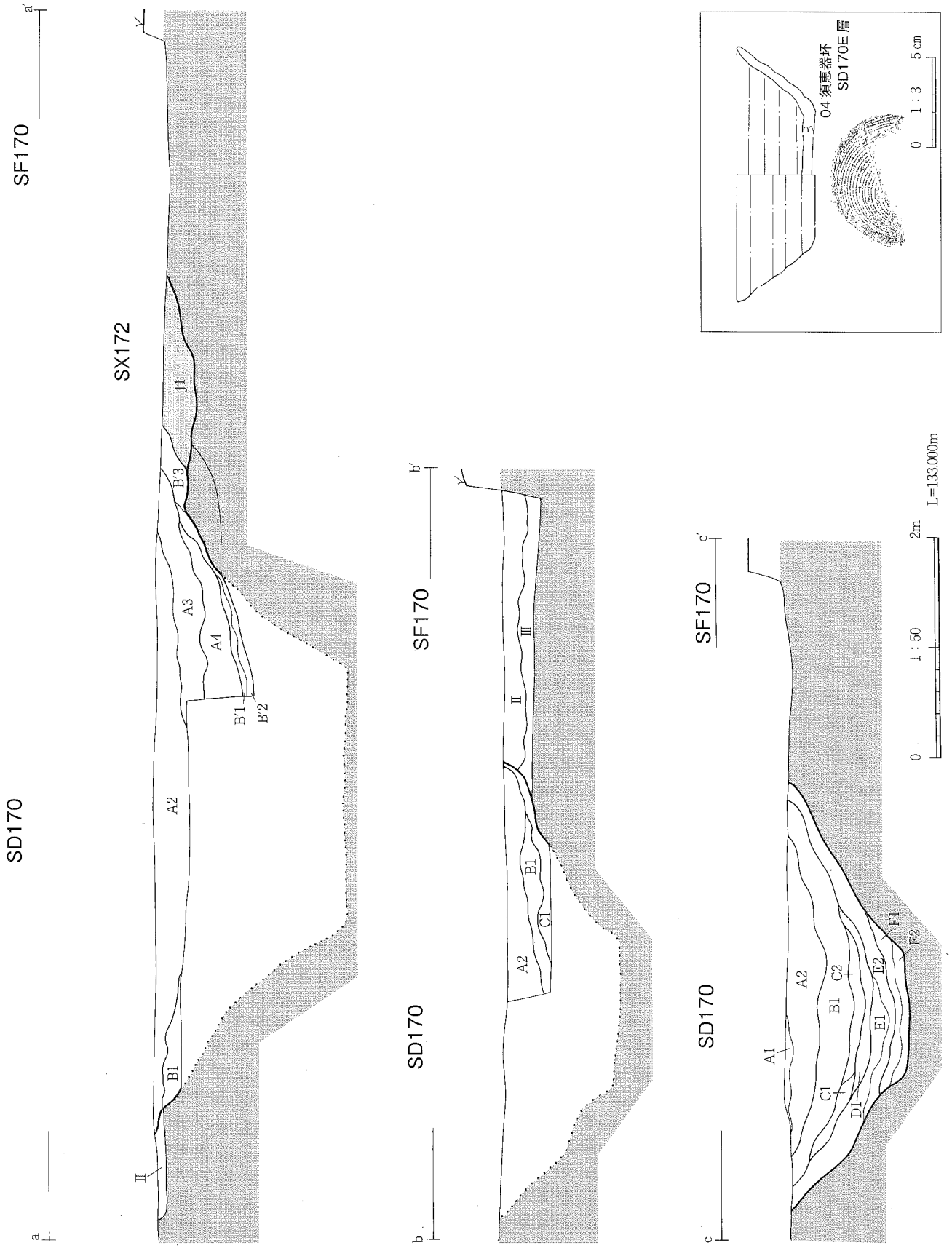
第12図　外郭西辺（第107次Ａ区南半部）調査　SD170築地外溝跡



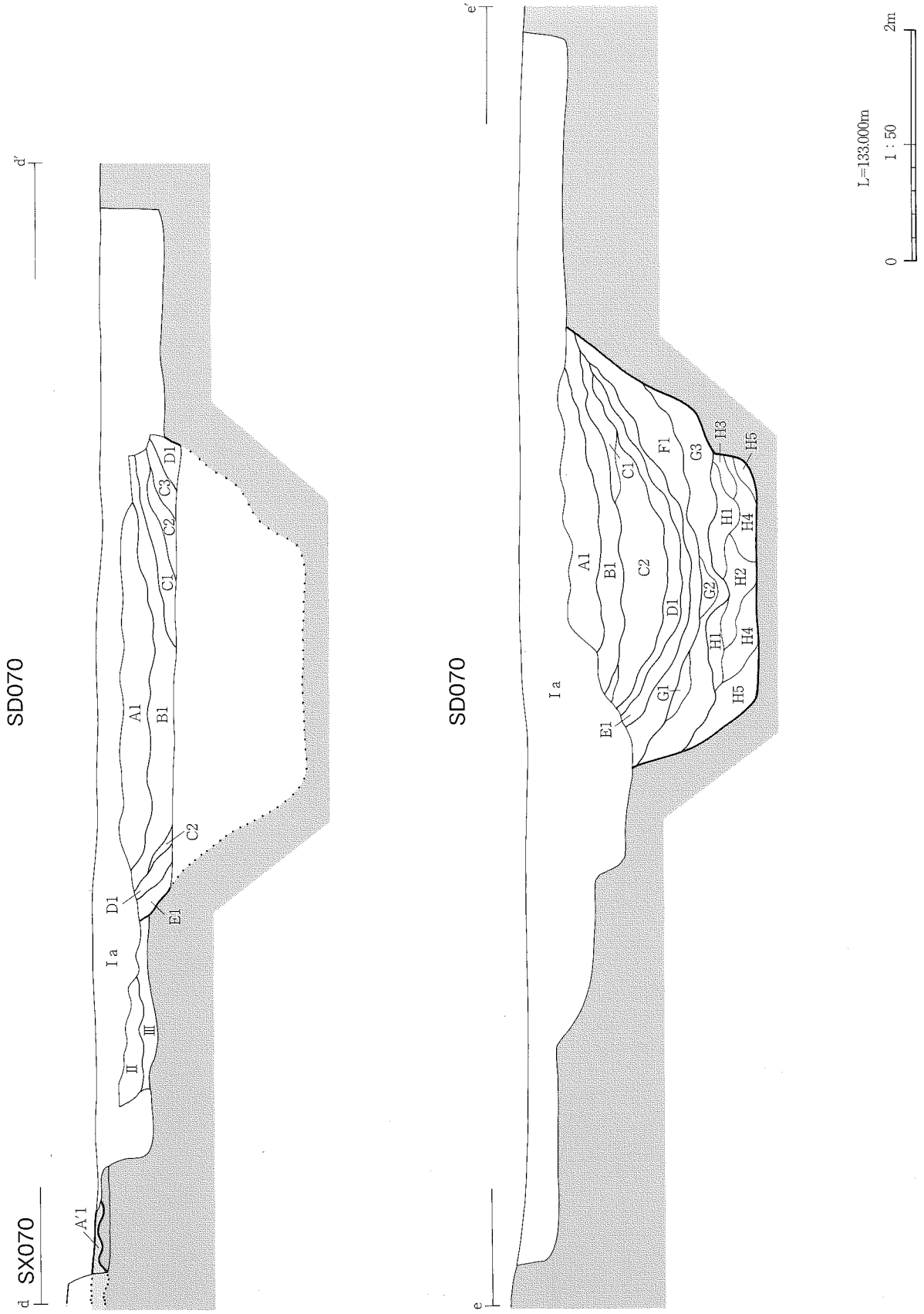
第13図　外郭西辺（第107次Ｂ区北半部）調査　SD070外大溝跡，SX070土塁跡



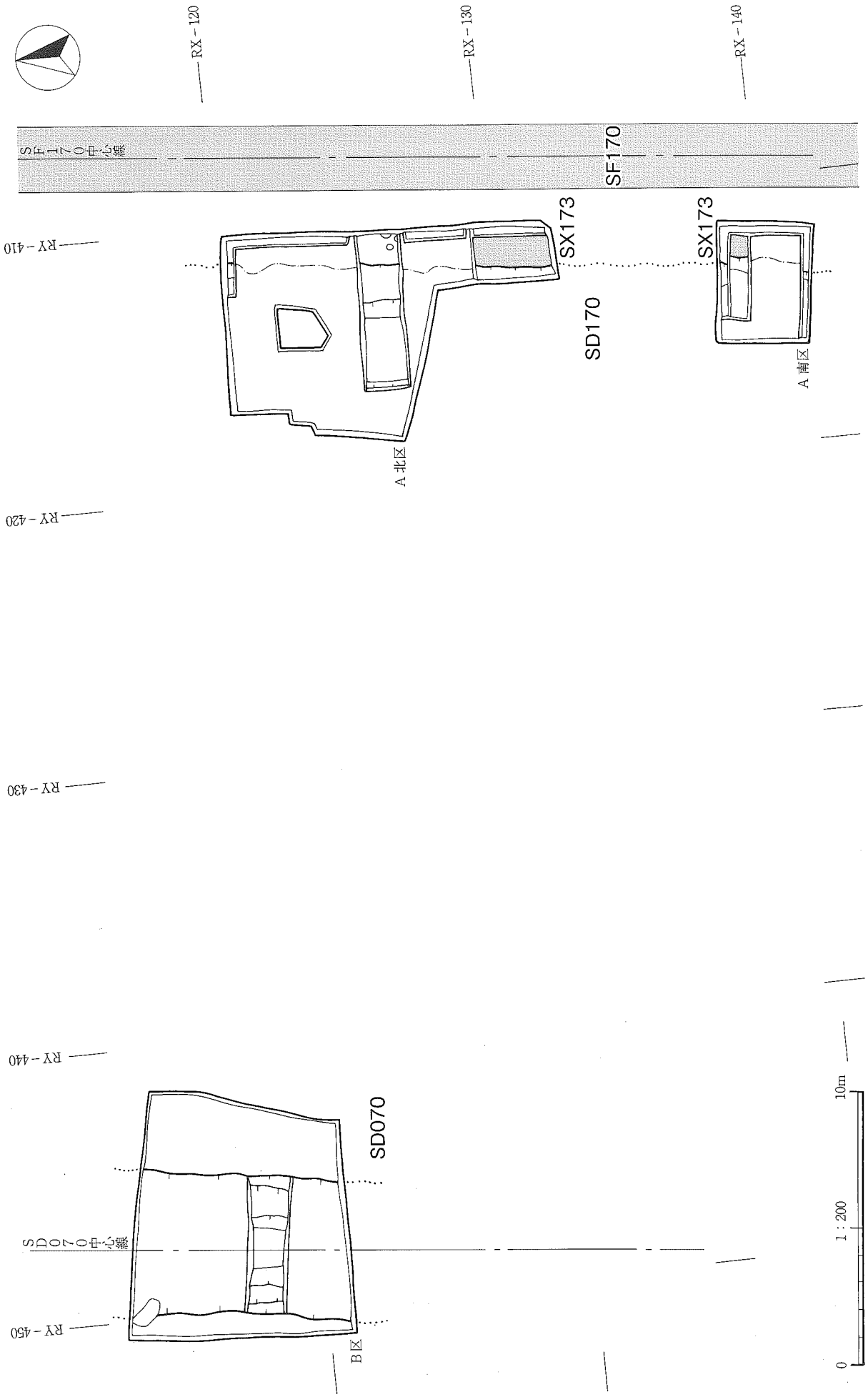
第14図　外郭西辺（第107次Ｂ区南半部）調査　SD070外大溝跡



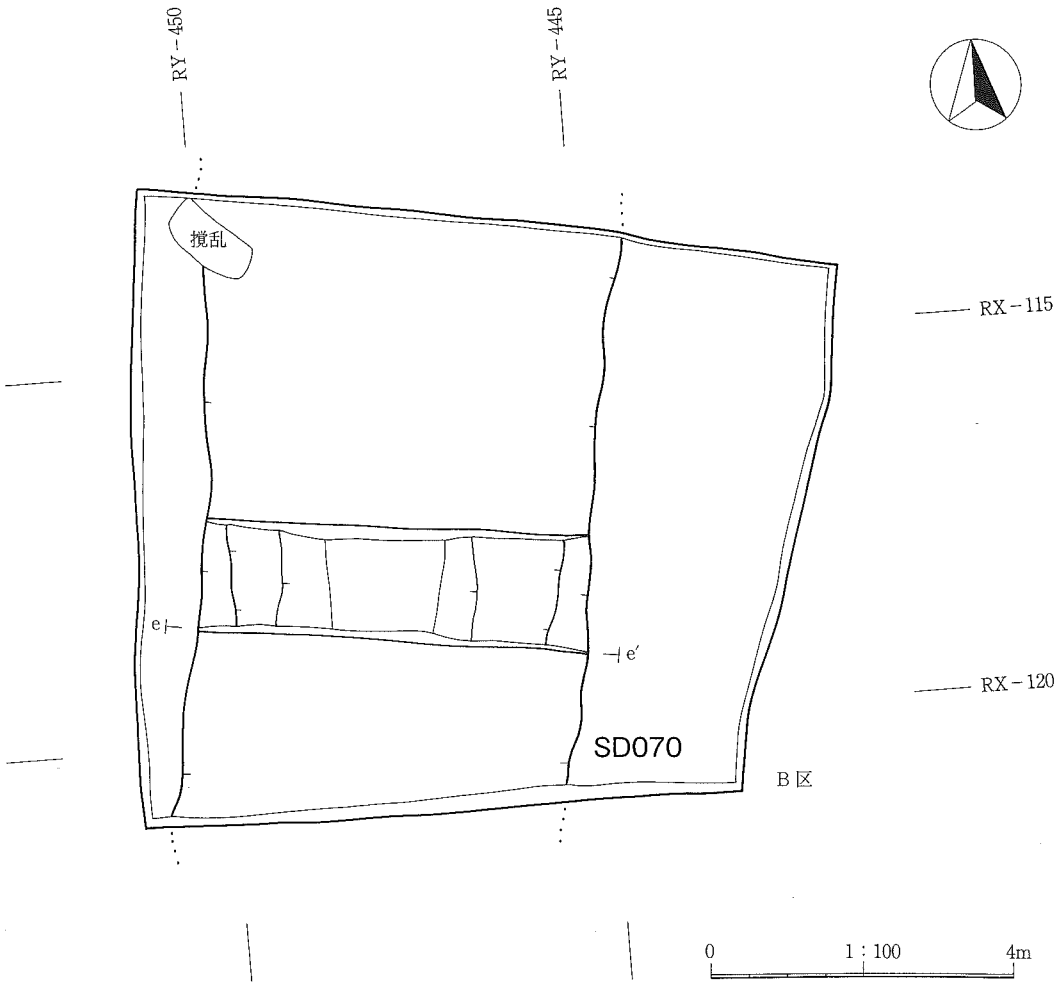
第15図　外郭西辺（第107次Ａ区）調査　SD170築地外溝跡，出土土器



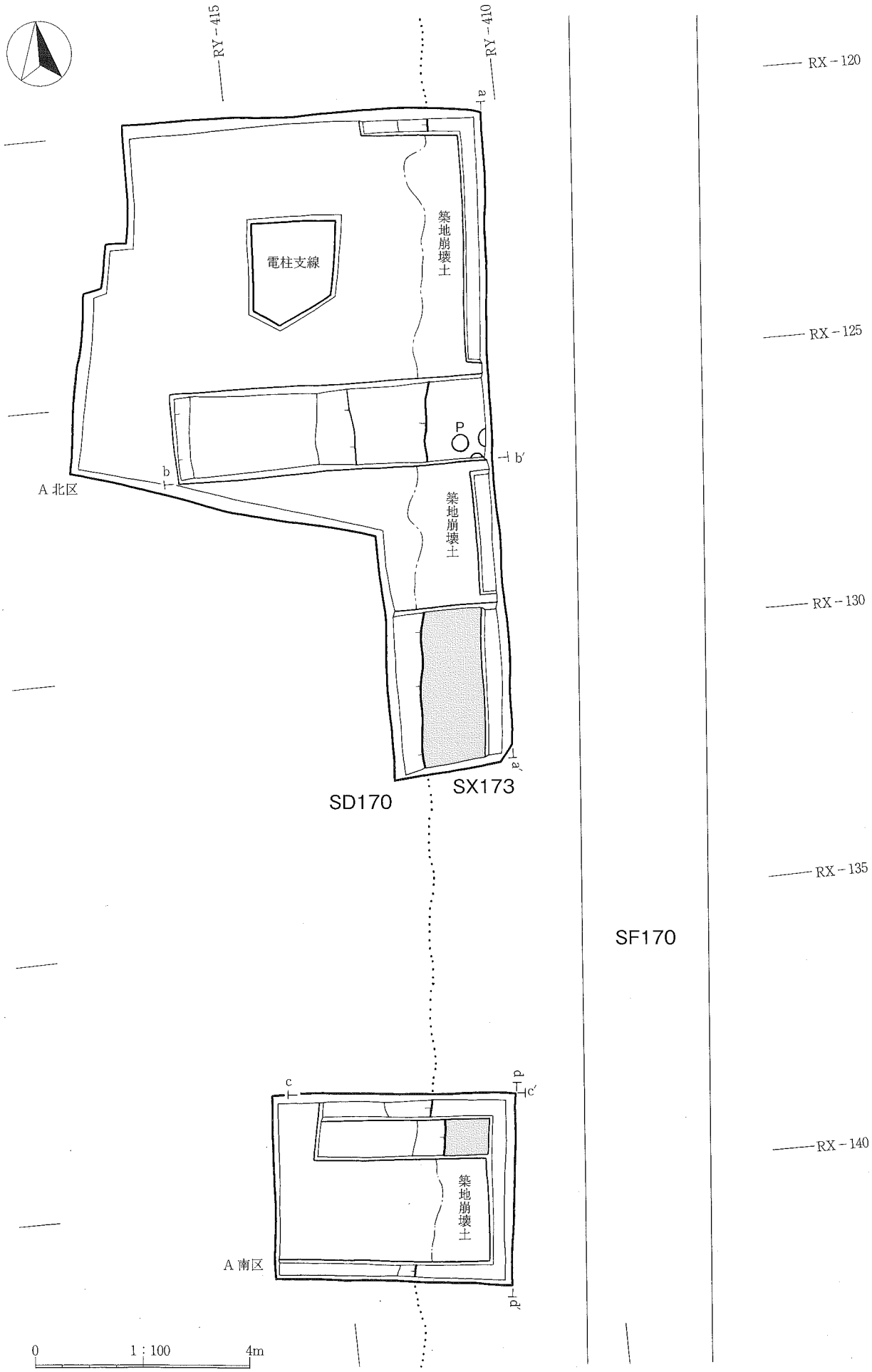
第16図　外郭西辺（第107次Ｂ区）調査　SD070外大溝跡，SX070土塁跡



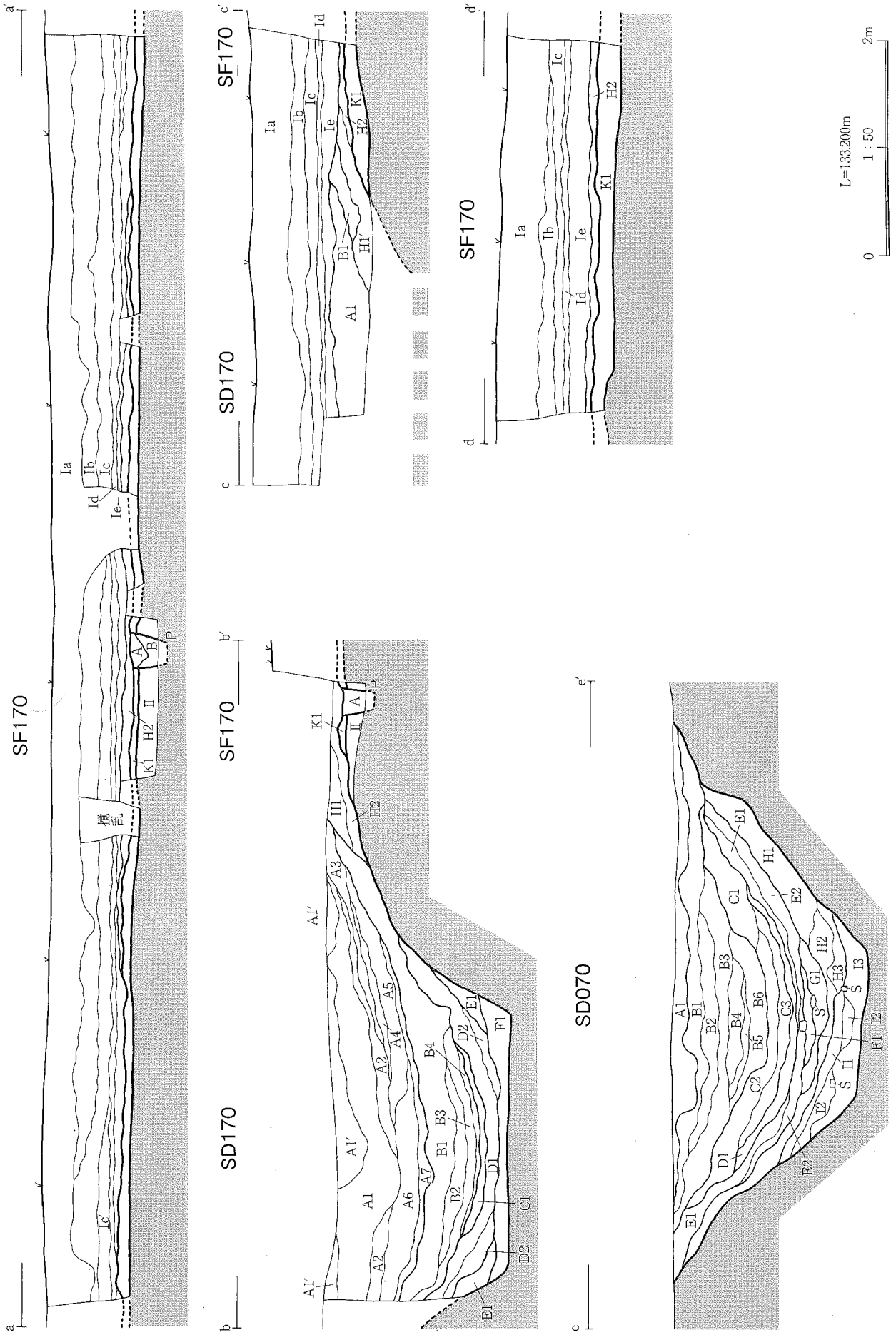
第17図　外郭西辺（第108次）調査全体図



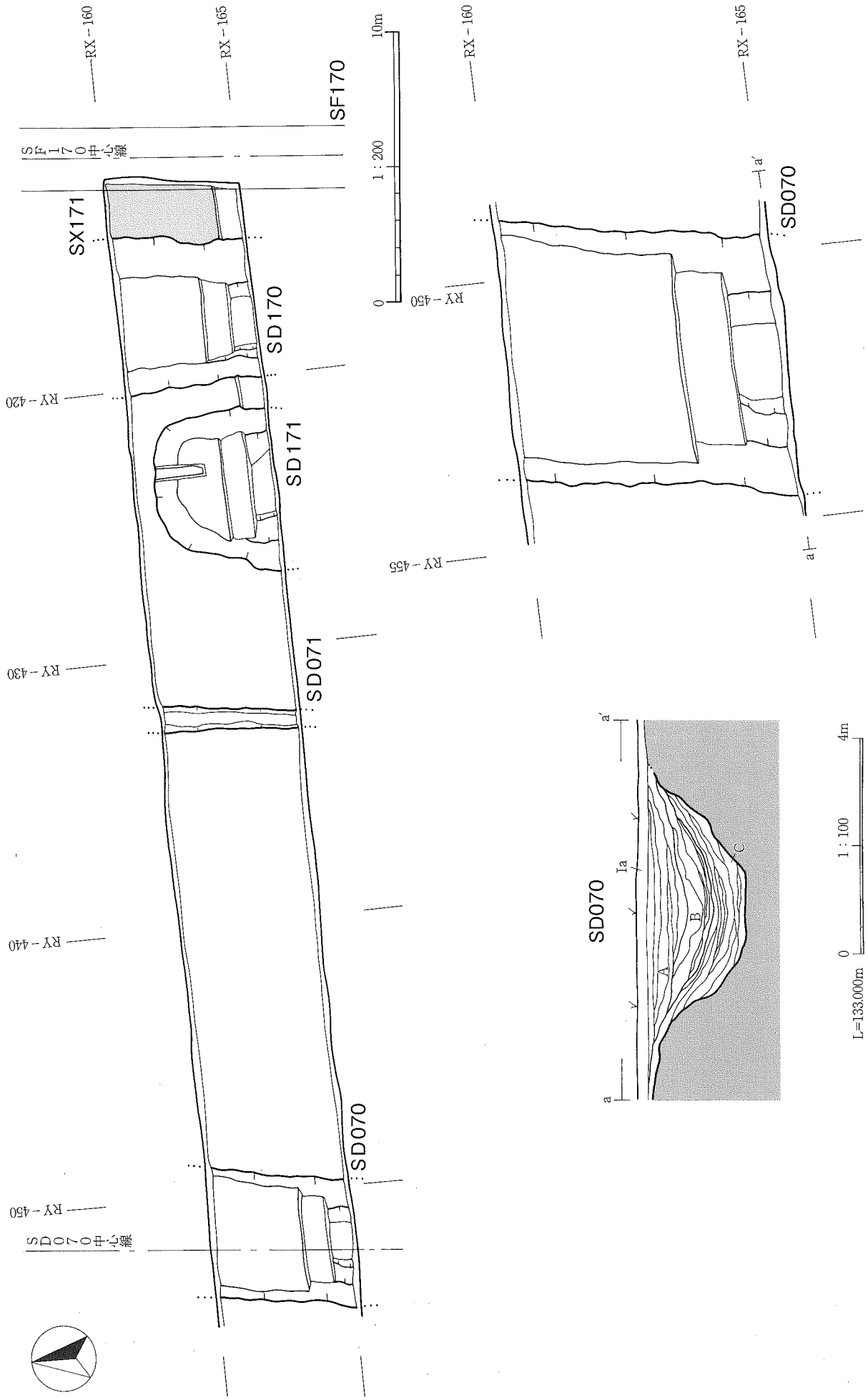
第18図　外郭西辺（第108次Ｂ区）調査　SD070外大溝跡



第19図　外郭西辺（第108次Ａ区）調査　SX173築地基壇跡，SD170築地外溝跡



第20図　外郭西辺（第108次）調査　SF170築地塀跡，SD170築地外溝跡，SD070外大溝跡

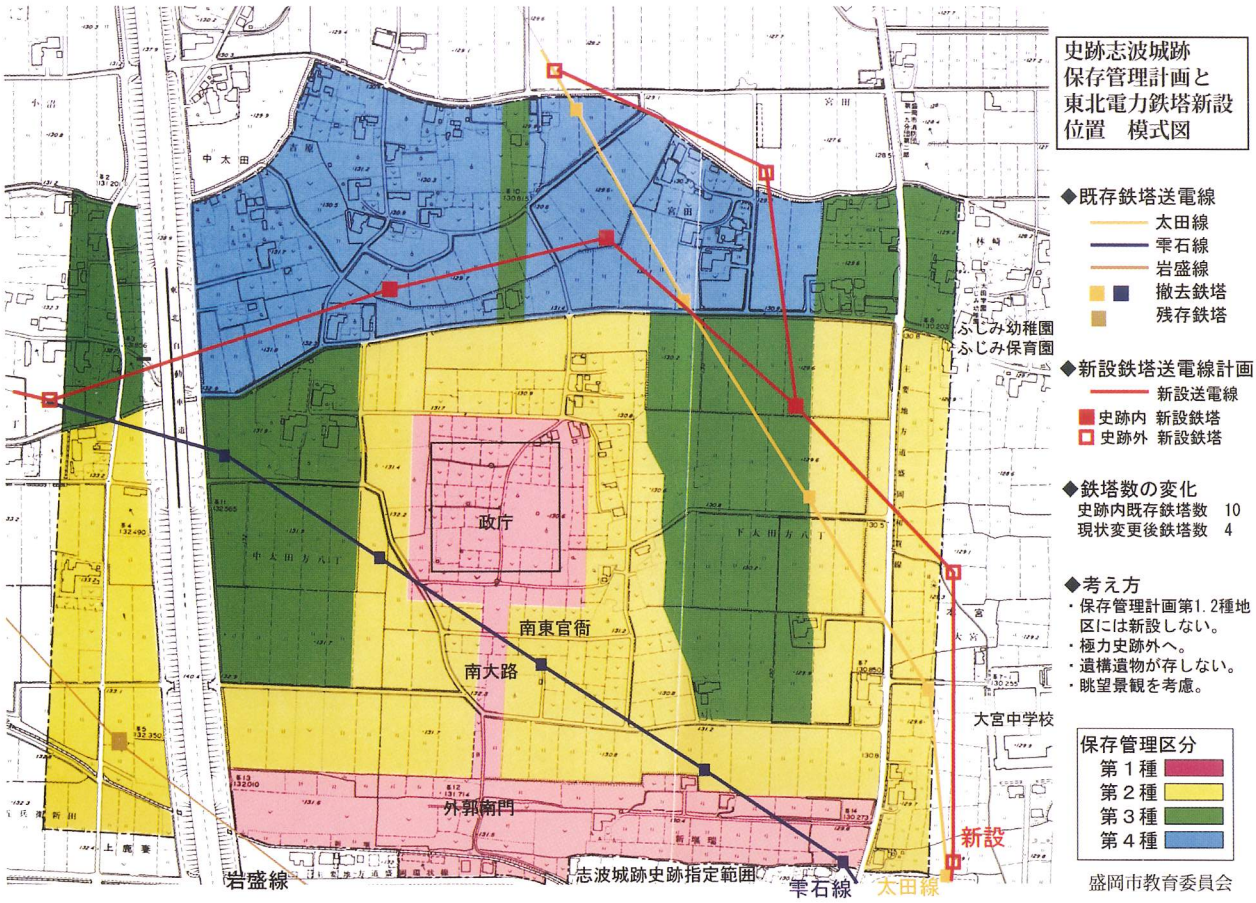


第21図　外郭西辺（第５次，1977年）調査全体図，SD070外大溝跡

第22図　外郭西辺（第５次，1977年）調査　SD170・171築地外溝跡，SX171築地基壇跡

写　真　図　版

第1図版　史跡志波城跡航空写真（南東から），復元建造物，ガイダンス施設



1 区［雫石線 No.6 鉄塔］全景
（北西から）
※旧河川跡検出，鉄塔新設箇所

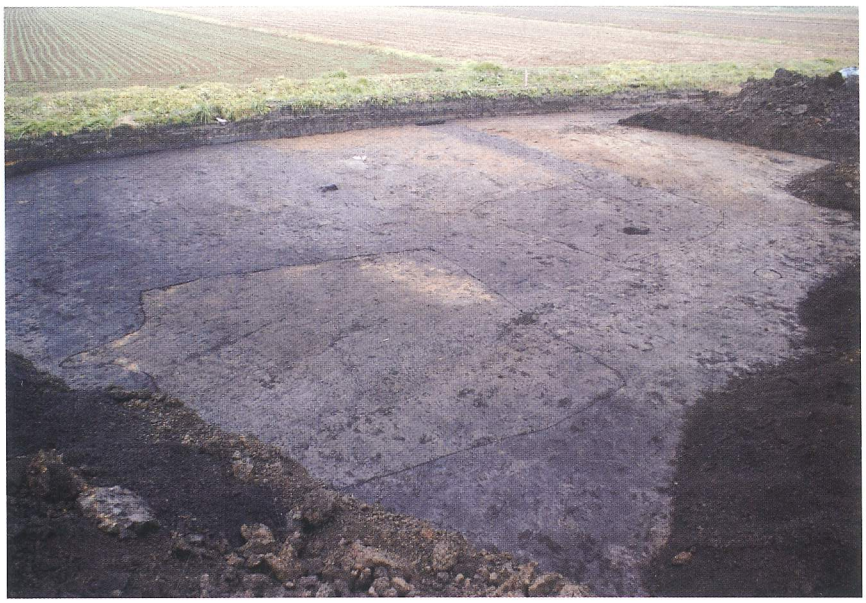
第2図版　第105次調査(1)

3 東区［太田線 No.4 鉄塔当初］全景
（北西から）
※竪穴建物跡等検出

3 南区［太田線 No.4 鉄塔当初］
全景（東から）
※竪穴建物跡等検出

3 西区［太田線 No.4 鉄塔当初］
全景（北東から）
※竪穴建物跡等検出

第3図版　第105次調査(2)



4 東区［太田線 No.4 鉄塔変更］
東半部全景（北東から）
※竪穴建物跡検出

4 東区［太田線 No.4 鉄塔変更］
西半部全景（南から）
※遺構検出なし，鉄塔新設箇所

4 西区［太田線 No.4 鉄塔変更］
全景（北西から）※溝跡・焼土検出

第4図版　第105次調査(3)

北トレンチ全景（東から）

北トレンチ全景（西から）

北トレンチ
ＳＤ１３０築地外溝跡
サブトレンチ断面（南から）

第5図版　第106次調査(1)

南トレンチ全景（東から）

南トレンチ全景（南西から）

南トレンチ
ＳＤ１３０築地外溝跡
サブトレンチ断面（南から）

第6図版　第106次調査(2)

調査区Ａ区全景（北から）

調査区Ｂ区全景（北から）

第7図版　第107次調査(1)

Ａ区ＳＤ１７０築地外溝跡
サブトレンチ１（北西から）

Ａ区ＳＤ１７０築地外溝跡
サブトレンチ１断面（北から）

Ａ区ＳＤ１７０築地外溝跡
サブトレンチ１断面
灰白色火山灰（北から）

第8図版　第107次調査(2)

Ａ区ＳＤ１７０築地外溝跡
サブトレンチ１
灰白色火山灰検出状況（北から）

Ａ区ＳＤ１７０築地外溝跡
サブトレンチ３（北西から）

Ａ区ＳＤ１７０築地外溝跡
サブトレンチ３断面（北から）

第9図版　第107次調査(3)

Ｂ区ＳＤ０７０築地外溝跡
サブトレンチ１（北西から）

Ｂ区ＳＤ０７０築地外溝跡
サブトレンチ１断面（北から）

Ｂ区ＳＤ０７０築地外溝跡
サブトレンチ１
灰白色火山灰検出状況（北から）

第10図版　第107次調査(4)

Ｂ区ＳＸ０７０土塁跡（南から）

調査風景

第11図版　第107次調査(5)

調査区Ｂ区全景（南から）

第12図版　第108次調査(1)

調査区Ａ区全景（南から）

第13図版　第108次調査(2)

B区ＳＤ０７０外大溝跡（南から）

B区ＳＤ０７０外大溝跡断面（北東から）

B区ＳＤ０７０外大溝跡断面
灰白色火山灰（北から）

第14図版　第108次調査(3)

Ａ北区ＳＸ１７３築地基壇・崩壊土
（南から）

Ａ北区ＳＸ１７３築地基壇・崩壊土
断面北部（南西から）

Ａ北区ＳＸ１７３築地基壇・崩壊土
断面南部（南西から）

第15図版　第108次調査(4)

Ａ北区ＳＤ１７０築地外溝跡（北西から）

Ａ北区ＳＤ１７０築地外溝跡・ＳＸ１７３築地基壇・崩壊土断面（北から）

Ａ北区ＳＤ１７０築地外溝跡（北から）

第16図版　第108次調査(5)

Ａ北区ＳＤ１７０築地外溝跡
灰白色火山灰検出状況（北から）

Ａ南区ＳＤ１７０築地外溝跡・ＳＸ
１７３築地基壇（南から）

Ａ南区ＳＤ１７０築地外溝跡・ＳＸ
１７３築地基壇・崩壊土断面（南から）

第17図版　第108次調査(6)

調査風景 (1)

調査風景 (2)

調査風景 (3)

第18図版　第108次調査(7)

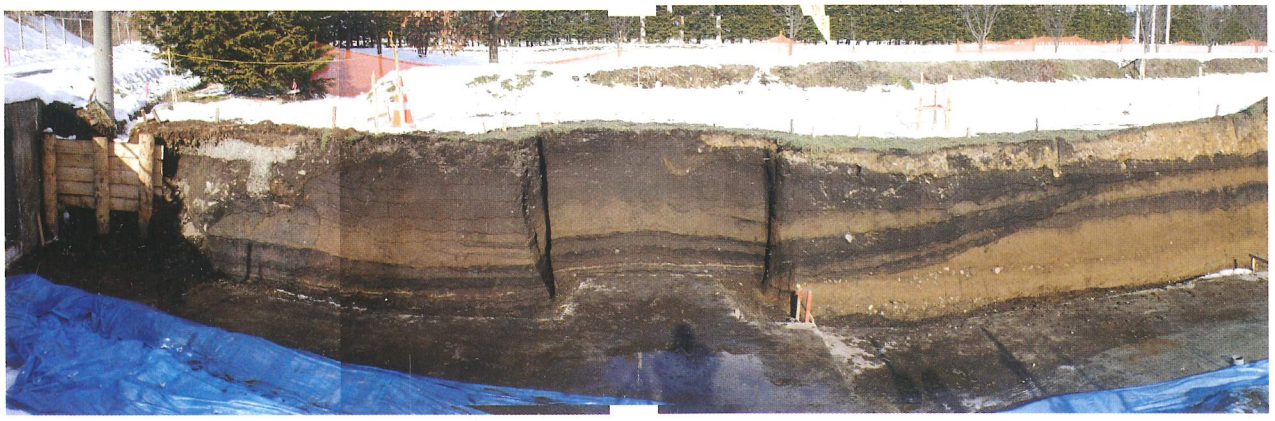
調査区全景（南西から）

調査区全景（南東から）

第19図版　第109次調査（1）

ＳＤ０１０外大溝跡断面近景（南東から）

ＳＤ０１０外大溝跡断面近景（南西から）



ＳＤ０１０外大溝跡断面全景（南から，合成）

第20図版　第109次調査(2)

調査区全景（北西から）

調査区全景（北東から）

第21図版　第110次調査

第105次調査　01　須恵器坏－SI461検出面

第105次調査　02　須恵器坏－SI461検出面

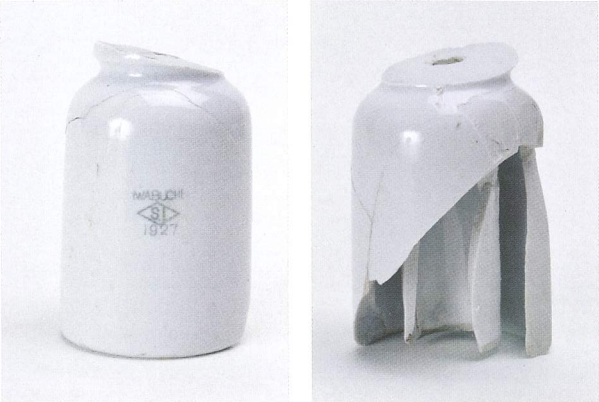
第105次調査　03　須恵器坏－4東区遺構外

第107次調査　04　須恵器坏-SD170－D層

第107次調査 近世陶磁器－遺構外

第107次調査　近代染付磁器－遺構外

第107次調査　近現代ガラス瓶－遺構外



第107次調査　碍子－「IWABUCHI」「1927」銘－遺構外

第22図版　第105・107次調査出土遺物

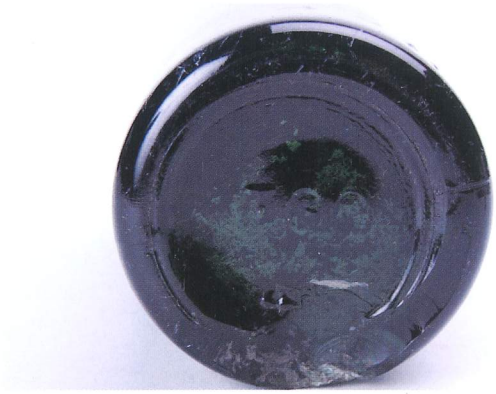
ガラス瓶(サクラビール)
高さ28.5cm　口径2.5cm　肩幅8.3cm　底面径7.0cm

大正時代のラベル
(「門司港地ビール工房」ホームページより転載)

右読み「標商○録登」

「SAKURA BEER」

右読み「ルービラクサ」



底面「TGC」

第23図版　第107次調査出土ガラス瓶(サクラビール)

第24図版　「サクラビール」ポスター（縦78㎝×横55㎝，昭和初期，個人蔵）

報告書抄録

ふりがな	しわじょうあと
書名	志波城跡
副書名	平成23・24・25年度発掘調査報告書
編著者名	津嶋知弘・今野公顕
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：盛岡市教育委員会）
所在地	〒020-0866　岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1　　電話　019-635-6600
発行年月日	2016年2月12日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
しわじょうあと 志波城跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 しもおおた 下太田 ほうはっちょう・しんせきばた 方八丁・新堰端ほか	03201		39° 41′ 02″ 世界測地系 39° 41′ 12″	141° 06′ 47″ 世界測地系 141° 06′ 34″	第105次 2011.04.12～04.26 2011.11.30～12.05	880	現状変更 （高圧線鉄塔移設）
						第106次 2011.11.15～11.22	78	内容確認 （Ⅲ期整備）
						第107次 2012.10.24～12.11	743	内容確認 （Ⅲ期整備）
						第108次 2013.10.15～11.18	145	内容確認 （Ⅲ期整備）
						第109次 2014.01.04	7	現状変更 （毀損復旧）
						第110次 2014.03.11	120	現状変更 （住宅建築）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
志波城跡 第105次調査	城柵官衙	平安時代	竪穴建物跡7棟，土坑4基 溝跡2条，柱穴	土師器，須恵器	遺構保存措置
第106次調査		平安時代	外郭東辺築地外溝跡	土師器	
第107次調査		平安時代	外郭西辺築地線・築地外溝跡 外郭西辺外大溝跡	須恵器，土師器	
		幕末～明治	表土	瀬戸美濃系染付なます皿（型紙摺）	
		大正～昭和初期	表土	ビール瓶（サクラビール）	
第108次調査		平安時代	外郭西辺築地線・築地外溝跡 外郭西辺外大溝跡	須恵器，土師器	
第109次調査		平安時代	外郭南辺外大溝跡	なし	毀損状況確認
第110次調査			なし	なし	

要約

志波城跡は，平安時代初頭の延暦22年(803)に朝廷が造営した，古代陸奥国最北端・最大級の城柵である。平成23～25年度の主な調査成果としては，郭内北部・北東部で実施した第105次調査では，平安時代・志波城期の竪穴建物跡（兵舎）を7棟検出し，郭内北東部では外郭沿いの兵舎域が大きく城内側に広がっていることが確認された。外郭東辺南部で実施した第106次調査では，築地外溝跡を検出し，断面形状等その様相がこれまで外郭東辺で実施した過年度の調査成果と共通することを確認した。第107･108次調査では，外郭西辺築地線（基壇等）･築地外溝跡･外大溝跡を検出し，外郭西辺の区画施設の規模･様相等がより明確となった。

志波城古代公園マスコットキャラクター
しわまろくん

志 波 城 跡

－平成 23・24・25 年度発掘調査報告書－

2016 年 2 月 12 日　発行

発行　盛岡市教育委員会　歴史文化課
〒020-8532 岩手県盛岡市津志田 14 地割 37 番地 2
TEL 019-651-4111

編集　盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1
TEL 019-635-6600

印刷　第一印刷有限会社
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 4 丁目 6-40
TEL 019-646-6001

志波城古代公園マスコットキャラクター
しわまろくん

志 波 城 跡

－平成 23・24・25 年度発掘調査報告書－

2016 年 2 月 12 日　発行

発行　盛岡市教育委員会　歴史文化課
〒020-8532 岩手県盛岡市津志田 14 地割 37 番地 2
TEL 019-651-4111

編集　盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13 番地 1
TEL 019-635-6600

印刷　第一印刷有限会社
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 4 丁目 6-40
TEL 019-646-6001